

CZ
5
0157

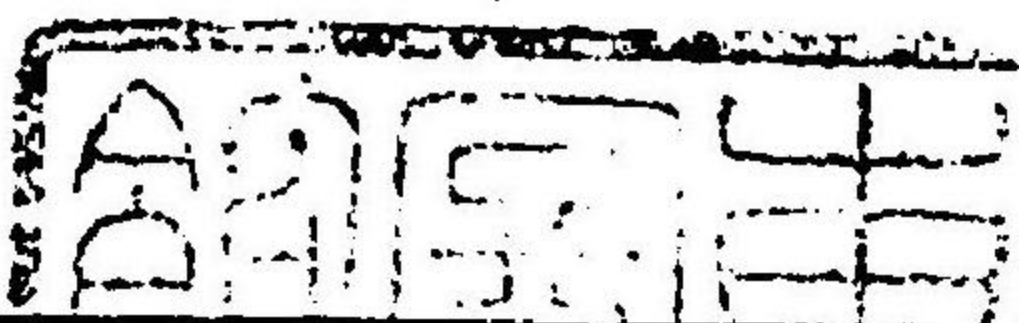
東京圖書館	
新門	四八八函
一部	三架
類	號

本邦
現行
法令
摘要

阪根正夫編輯

下丙

CZ
5
0157



御指合ハ御
取消下心得
可然ヤ又ハ
右廣島縣伺
中且他
養女トナ
妻ニ娶ルモ
不苦トアル
ハ何等ノ續
柄ニ候哉
指合十年十
月二十
日十八
舊島取縣ハ
指合ハ取消
ト可心得事
○

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ
販賣シタル者ハ有期徒刑ニ處ス

第二百三十八條 阿片烟ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ及
ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具
ヲ輸入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加
フ

第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ
利ヲ圖ル者ハ輕懲役ニ處ス

人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ

林邦法令編要 卷下 頁 萬葉文編

憲京都府八年六月二十

二日伺 九妻妾タル

者ハ二等親ニシテ必共

夫ノ戸籍ニ編入スヘキ

ハ勿論ニ候

處他家ノ娘ヲ引取後年

其子ニ妻スヘシト雙方

私ニ許諾相濟サセ置キ

未タ婚姻ヲ行ハス其家

第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二百四十二條 阿片烟及吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フル能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

ノ籍ニモ編入セスト雖

共子ノ妻ト看做シ候慣

習有之就テハ妾モ同様

ノ儀ニテ雙方私ニ許諾

相濟セ候ハ未タ入籍

セストモ妾ト看做シ候

弊風モ有之候若シ其入

籍ノ有無ヲ問ハス獨リ

第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

第二百四十六條 傳染病豫防ノ為メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スルヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地方ヨリ他所ニ出タル者ハ十五日以上六月以下

雙方私約ノ成否ニ依リ公然妻妾ト看做ストキハ戸籍上ノ取締モ難出
來就中妾ト申ス者ハ間々給料ヲ以テ召抱置候者モ有之ニ付其入籍ノ法ヲ嚴重ニ不仕候ヘハ應賣女ノ弊ヲ可生到底

ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他所ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

ホタ其家ニ入籍セサル女ヲ指シテ妻妾ト公認スル理ハ無之等ト存候得共昨年愛媛縣伺ヘ司法省ノ御指令ニ允妾ト稱スルハ雙方許諾ノ上始テ其名ヲ定ムルヲ得云々ト有之右定名ト申

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設スト雖ヒ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シテ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタ

スハ雙方公

然其筋ニ届

出戸籍編入

取計中ノ事

ト心得可然

哉相伺候也

指金ハ年二十

ト七

書面雙方ノ

許諾アリト

雖妻或ハ妾

ト公認スヘ

カラサル儀

ト可相心得

車

但愛媛縣へ

ル者八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ

死ニ致シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從

テ處斷ス

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人

ヲ死傷ニ致シタル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キ

ニ從テ處斷ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

第二百六十條 賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招

司法省指令

八本年第百

三號公布第

五條ノ通可

相心得事

三号公布

ハ裁判事務

ナリ

○

豊國縣

一月十

當縣士族中

西勝之進幼

年ニテ家族

多ク一家力

食活計ノ目

的モ難相立

結シタル者ハ三月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓

以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者

ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓

以下ノ罰金ヲ附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者

亦同シ但飲食物ヲ賭スル者ハ此限ニ在ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ贖集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖

スルノ業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁

錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然

不敬ノ所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處

遂ニ家名廢
絶ニモ可至
哉ト祖母告
心イタシ寡
母ヘ繼父ヲ
迎度音別紙
ノ通願出右
ハ貞操ヲ破
リ難聞屈筋
ニ有之然ル
處男女同權
ヨリ論シ候
ヘハ嫁夫ノ
後妻ヲ迎ル
アレハ寡婦
ノ後夫ヲ不

ス
若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

可得ノ理無
之且平民ニ
至候テハ勝
手ニ配偶入
籍送籍等取
計士庶ノ別
ヲ以テ寡婦
再婚不相成
モ如何ト被
存殊ニ祖母
ヨリ其母ニ
許ス其子不
可拒ノ情誼
モ有之右等
ハ親族目上
ノ許可ニ任

第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ穀類其他衆人ノ需用ニ關テ可カラサル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

七別段願書 第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工ノ書ヲ妨害

差出サセス 黙許ニ付シ

送籍入籍為

取計可然哉 第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工

相伺候也 業ノ景況ヲ變セシムル為メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ

指念八年四月 偽計威力ヲ以テ妨害ヲ為シタル者ハ一月以上六月以

書面遺子ヲ 下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加

有スル寡婦 夫ヲ迎候儀

ハ不相成一 般ノ成規ニ

候條勝之進 第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況

ヲ變スル為メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以

テ妨害ヲ為シタル者ハ亦前條ニ同シ

第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布シテ穀類其他衆人

需用物品ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓

以下ノ罰金ニ處ス

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施

行セス又ハ他ノ官吏ノ公布施行ヲ妨害シタル者ハ二

月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權ア

ル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當

リ其處分ヲ為サル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮

ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ為シタル

身分及ヒ家 產等ニ就テ

ハ後見人ノ 管守保護ス

ルハ當然ノ 儀ト相心得

此旨説諭可 致候事

石川縣八年 二月十日

管下農商等 ノ内戸主幼

ニシテ家事 難治或ハ營

業差支情實 無餘儀向ニ

本邦法

者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二節 官吏人民ニ對スル罪

夫ノ後見ヲ
始ノ百般差
配致候者有
之右ハ名義
ニ於テ如何
ニハ候得共
營業方不得
乙次第モ有
之聞置候處
戶籍同戸列
次順ノ儀ハ
戸主ニ於テ
ハ續モ無之
者ニ付母再

第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲシテ其權利
ナキ事ヲ行ハシメ又ハ其爲ス可キ權利ヲ妨害シタル
者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

夫ノ名義ヲ
以テ戸主兄
弟姉妹夫妻
ノ上ハ書載
可申儀歟ト
存候妻列次
ノ儀ハ戸主
ヨリ二等親
ニ付妻次列
ト存候得共
祖父及父ノ
妻ハ戸主ヨ
リハ他人ノ
儀ニ候得ハ
同戸列次ノ
順ハ是亦戸

第二百七十七條 人ノ身體財産ヲ妨害スルノ犯人アル
ニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保
護ノ處分ヲ爲サル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁
錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

夫ノ名義ヲ
以テ戸主兄
弟姉妹夫妻
ノ上ハ書載
可申儀歟ト
存候妻列次
ノ儀ハ戸主
ヨリ二等親
ニ付妻次列
ト存候得共
祖父及父ノ
妻ハ戸主ヨ
リハ他人ノ
儀ニ候得ハ
同戸列次ノ
順ハ是亦戸

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ
遵守セズシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル
者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎
ニ一等ヲ加フ

夫ノ名義ヲ
以テ戸主兄
弟姉妹夫妻
ノ上ハ書載
可申儀歟ト
存候妻列次
ノ儀ハ戸主
ヨリ二等親
ニ付妻次列
ト存候得共
祖父及父ノ
妻ハ戸主ヨ
リハ他人ノ
儀ニ候得ハ
同戸列次ノ
順ハ是亦戸

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セズシテ囚
人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リ
之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

夫ノ名義ヲ
以テ戸主兄
弟姉妹夫妻
ノ上ハ書載
可申儀歟ト
存候妻列次
ノ儀ハ戸主
ヨリ二等親
ニ付妻次列
ト存候得共
祖父及父ノ
妻ハ戸主ヨ
リハ他人ノ
儀ニ候得ハ
同戸列次ノ
順ハ是亦戸

第二百八十條 前二條ニ記載シタル官吏又ハ護送者囚
人ニ對シ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタ
ル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四
十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

夫ノ名義ヲ
以テ戸主兄
弟姉妹夫妻
ノ上ハ書載
可申儀歟ト
存候妻列次
ノ儀ハ戸主
ヨリ二等親
ニ付妻次列
ト存候得共
祖父及父ノ
妻ハ戸主ヨ
リハ他人ノ
儀ニ候得ハ
同戸列次ノ
順ハ是亦戸

因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ殴打創傷ノ各本條ニ
照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

主兄弟姉妹 第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解ク
夫妻ノ上ハ
書載候儀歟
ト存候
指令 八年八
月五日
書面初ケ條
戸主幼年ノ
者ニハ後見
人ヲ置ヘク
其母ハ後夫
ヲ迎ヘ候儀
ハ不相成候事

第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對
シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所
爲アル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以
上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百八十三條 裁判官檢事官故ナクシテ刑事ノ詠ヲ
受理セス又ハ遷延シテ審理セザル者ハ十五日以上三
月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス
其民事ノ詠ニ係ル者亦同シ

第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又
ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收
受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關
シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上

至結婚ノ儀
ハ女戸主ニ
二様有之亡
夫ノ跡相續
セル婦女ニ
至テハ前夫
ノ縁故ヲ以
相續セル者
ニ付更ニ結
婚配偶ハ相
成間敷云々
先般東京府
ヨリ伺面伺
ノ通尤再ヒ
其夫ヲ迎ル
ハ不苦旨御

其民事ノ詠ニ係ル者亦同シ
第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又
ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收
受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關
シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上

其民事ノ詠ニ係ル者亦同シ
第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又
ハ之ヲ聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收
受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關
シテ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上

指令 大政官
日誌明
治六年第百
六十三号
相成候就テ

ハ夫ノ跡ヲ
相續セル婦
女ニ不限夫
死去實男女
子并相當ノ
養子モ無之
節ハ右孀婦
再ヒ夫ヲ迎
戸主ニ相定
ノ候儀下昔
候共
指令 八年三
月八日
書面同ノ通

二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ被告入ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其被告入ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第二百二十二條ノ例ニ照シテ及坐ス

第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト雖モ情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ狹サミ被告入ヲ曲庇陷害シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂已ニ收受シタル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

第三節 官吏財産ニ對スル罪
第二百八十九條 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス

因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百五條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ金穀ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付

ス

タル者ハ之ヲ沒收シ費用シタル者ハ其價ヲ追徵ス

課身 八年十月
廿八日
内
平民ノ内戸
主病死男女
子如年ニ付
妻戸主ト相
成居候得共
何分沽計ノ
目途難相立
不得已事情
モ有之節ハ
後夫ヲ迎ヘ
戸主ニ相立
候儀親戚連
署願出候ハ

、聞届不苦
哉
指令八年二十
日十七

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

男女子有之
女戸主ハ後
夫ヲ迎候儀
不相成候事
但後夫ヲ迎
ハサレハ其
家保存シ難
キ不得已情
實有之往々
家督ハ必ス
遺子ニ繼承
可為致契約

第二百九十二條 豫メ謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト為シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト為シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所為ヲ以テ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル為メ又ハ

書右後夫ヨ
リ妻又親
族ヘ對シ為
差出右意趣
ヲ以親屬或
ハ戸長證印
ノ上願出ニ
相成候ハ、
詮議ノ上可
及指圖候條
其旨可伺出
事
高知縣四年
同日

已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、為メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ詐稱誘導シテ危害ニ陥レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論シ其豫メ謀ル者ハ謀殺ヲ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪

第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷キ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺

第一條 婦
女ニシテ戸

本邦法令編要 卷下 皇 萬葉開載

主タルヲ得ルハ元ト家ニ男子ナク且他ニ迎夫及養子ノ相應スヘキ者ナキヲ以テナリ然則他日彼ノ相應ト思量スル者ヲ得ハ女至ハ之ヲ迎テ夫トスルモ又養子トスルモ本人ノ自由ニ任

精神ヲ喪失セシメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘虧シ廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又ハ職業ヲ營ムヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業廢篤疾又ハ

セ可然哉

第二條 前

條ノ場合ニ

於テ其養子

幼年ナルキ

成育ノ間思

情ノ真密ナ

ルヲ得初メ

テ戸主ヲ讓

ルヘキ積リ

ヲ以テ暫ク

相續ノ權ヲ

付與セス豫

備養子トシ

テ爾尚他ノ

子第ヲ養フ

者之ヲ豫備

養子ト假稱

死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス

第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルヲ能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但教唆者ハ減等ノ限ニ在ラス

スノ目ヲ以テ入家為致候儀雙方親屬連署願出ルトキハ士民ノ別ナク聞届可然哉但本條ノ分

モ聽許スヘカフサルモ其幼年者ノ外ニ恰當ノ者ナク且數年間愛育セシ故ヲ以テ強テ情願ヲ

第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス
第三百七條 健康ヲ害スヘキ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス

第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詭稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス
第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不

起ス者ハ聞届可然哉

指令 十月二日六

書面第一條 同ノ通

第二條 婦女子相續ノ

後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ

養子致シ候ハ、直ニ共

夫又ハ養子ハ相續可相

讓答ニ付難

聞届儀ト可

相心得事

正ノ所為ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラ

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手ヲ下スノ先後ヲ知ルヲ能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルヲ得

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル為メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シニ等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ為メニシ他人ノ為メニスルヲ分タス其罪ヲ論セス但不正ノ所為

○ 島根縣 八月十八日 養子死亡ニ付更ニ其兄弟ヲ養子ト爲シ其家ノ養女トナシ更ニ結婚スルモノ
 指令 九月二十九日
 他ノ養女ト

ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
 第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ已ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
 一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲ス者ヲ防止スルニ出タル時
 二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
 三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戸牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時
 第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ已ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害已ニ去リタル後ニ於テ勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但情狀ニ因リ第三百十

ナストモ結婚不相成事
 〇 和歌山縣 八月二十三日 同ノ
 第二條 夫婦アリ他ヨハルモ夫死シテ家名ハ長男相續セリ然ルニ其婦壯年ニ付雙方尊屬協議一旦該家離縁ノ上實

三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得
 第四節 過失殺傷ノ罪
 第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ癩篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五節 自殺ニ関スル罪
 第三百二十條 人ヲ殺咬シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年

家へ復籍更ニ他家へ再嫁スヘキ情故ヲ以テ離縁願出候節其戸主願人ニ相成候テハ母子ノ間事理不穩右等ハ親族連署ノ上願出サセ可然哉
第三條 前條士民ノ別ナク取扱候テ可然哉

以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス
第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
第三百二十二條 擅ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
第三百二十三條 擅ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

猶令ハ八年八月九日
第二條 本人ハ勿論親族連署ノ上為願出聞届可申事
第三條 伺
名東縣 八年五月二十五日 伺ノ内
一明治七年十月二十八日 秋田縣伺
第二條 御指
令但書其妻
夫死後三百

下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第三百二十五條 擅ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クコトヲ怠リ因テ死傷ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第七節 脅迫ノ罪
第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

日ヲ過キ云々右ハ全ク遺胤有無ヲ檢スル為ト被存候然レハ戸主死シテ遺妻再ヒ夫ヲ迎フルカ又ハ他へ再嫁スルモ遺胤ノ有無ニ關スル儀ニ候哉但本文御指令ハ刑典ニ罹リ候者ニ

歐打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者ハ亦前二條ノ例ニ同シ

第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第八節 墮胎ノ罪
第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎

限リ候哉

指令八年九月

本文伺ノ通

可相心得事

但刑典ニ關シ候儀ハ無

之候事

師磨縣八年

同ノ内

第一條 遺

子ヲ有スル

寡婦ニシテ

後夫ヲ迎候

儀ハ不相成

旨本年一月

豐岡縣同御

シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致タル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フ

第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシメタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年

以下ノ重禁錮ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス

指令ノ趣モ 第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ廢篤疾又
有之候處當 縣下ニ於テ 八死ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ
モ從來ノ慣 從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百三十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ
素ヨリ倫理 一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
上ニ於テ不 自ラ生活スルヲ能ハサル老者疾病者ヲ遺棄シタル者
都合ノ事ニ 亦同シ
候得共配偶 既ニ歳月ノ

及キテ經共 第三百三十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕
子女等有之 無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁
者ヲシテ今 錮ニ處ス
俄ニ離別セ シムルモ又

第三百三十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受テ保養ス可
シムルモ又

人情ノ忍フ キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ
可カラサル

所ニ有之依 第三百二十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ廢疾ニ致シ
タル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ
テ右ノ類ハ 處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
之ヲ既往ニ 指キ遺子ヨ

リハ其夫ヲ 第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺
指シテ繼父 棄セラレタル幼者老疾者アルヲ知テ之ヲ扶助セス
ト稱シ可然 又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重
哉 禁錮ニ處ス

但本文伺ノ 若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルヲ知テ扶助セス又
通ニ候ハ、 自今後夫ヲ 八申告セサル者亦同シ
迎候儀不相 成旨一般ハ

第十節 幼者ヲ畧取誘拐スル罪

布達續就 第二百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘

テハ遺子ハ
男女別ナキ
モノト見做
シ可然哉

第三條 茲
ニ寡婦アリ
遺子其家ヲ
継キホク成
長ニ至ラス
ト雖後見人
其家ヲ管理
スルアリ且
自他親戚ノ
熟議ニ出ル
トキハ其婦
家女ナレハ

拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年
以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰
金ヲ附加ス

第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略
取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年
以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス其誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交
付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルトヲ知テ自
己ノ家屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受
シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

直ニ他ニ再
嫁シ其他ヨ
リ嫁シ來ル
者ノ如キハ
一旦其家ニ
歸リ更ニ再
嫁スルモ併
テ不苦哉

指令ハ年十
十九
第一條
伺ノ通
但書ノ趣遺
留男子女有
之寡婦ハ後
夫ヲ迎フル

第二百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ
其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタ
ル幼者式ニ從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ
第二百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ
外國人ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十二節 誣告及ヒ誑毀ノ罪
第二百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ
第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始
メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス
第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル
時ハ第二百二十一條第二百二十二條ニ記載シタル例

ニ照シ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル

者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上

三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰

金ヲ附加ス

二書類圖畫ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作為シテ人ヲ誹

毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ

五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タル

ニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルヲ得ス

第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辯護人代書人

儀ハ不相成
候ヘ共若シ
遺子廢篤疾
等ニ相續
ニ難相立不
得已事故有
之候ハ、本
人及ヒ親族
連署ノ願書
ヲ副經伺可
受處分儀ト
可心得管内
一般布達ノ
儀追テ相達
候迄可見合
事

第三條 同

ノ通

三岐車縣九

二月二十

五日伺ノ

御省日誌第

六十一號中

福島縣伺第

一條妻或嫁

逃亡云々ノ

御指令ニ夫

ノ存意ヲ以

離婚届出候

ハハ期限ヲ

問ハス直ニ

聞届不苦候

若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ
因リ知得タル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ
十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受ケテ事實ヲ
陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者
又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第十三條 祖父母ニ對スル罪

第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル
者ハ死刑ニ處ス

其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ

第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ

事ト有之然
ルニ昨八年
第二十二號
日誌中鳥取
縣同第三條
妻逃亡云々
御指令ニハ
脱籍後二十
四ヶ月ヲ踰
テ願出候節
ハ離縁ノ上
後妻ヲ娶リ
候儀聞届不
苦候事ト有
之右ハ鳥取
縣ヘノ御指

罪其他監禁脅迫遺棄誣告誣毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各
本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癆
疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者
ハ死刑ニ處ス

第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給
セズ其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六
月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス

因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特
別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルヲ得ス但其犯ス
時知ラサル者ハ此限ニ在ラス

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ
罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盜ヲ犯
シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ
開キ邸宅倉庫ニ入り竊盜ヲ犯シタル者ハ亦前條ニ同
シ

第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル
者ハ各一等ヲ加フ

第三百七十條 兇器ヲ攜帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ

令改正相成
候事ト相心
得可然哉

指令九年五
月二日

逃亡ノ妻ヲ

離縁スルハ

不問期限聞

届不苦候得

共失踪ノ妻

ハ從前ノ通

二十四ヶ月

ヲ経テ離縁

聞届候儀ト

可相心得事

大坂府明治
十二年十月
十五日同

本邦法令揭要

卷下

百四

萬葉集

第一大區九

小區道修町

三丁目

石田榮次

郎七

妻 ヤス

右之者儀同

入方附藉堀

口忠共衛十

ル者ヲ後夫

ニ貫受相續

為致度旨別

紙ノ通り願

出候間亡夫

版中ニハ有

之候得共願

入り竊盜ヲ犯シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人

ニ交付シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時

之ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜果其他ノ產物ヲ竊

取シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十三條 山林ニ於テ竹木礦物其他ノ產物ヲ竊

取シ又ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ヲ生養シ若クハ營業

ニ關スル產物ヲ竊取シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百七十四條 牧場ニ於テ牧畜ノ獸類ヲ竊取シタル

者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシ

意開届可然

哉別紙書面

相副相伺候

也別紙

指念十一月廿年

書面伺ノ趣

ハ版中ニ関

係無之候得

共再婚期限

ハ左ノ通可

相心得事

婦タル者夫

死亡セシ日

又ハ離縁ヲ

受ケレ日ヨ

テ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑

ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又

ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜

ヲ以テ論スルノ限ニ在ラズ

若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ

論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ

強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一

リ三百日ヲ
過サレハ再
婚不相成候
事
但遺胎ノ徵
ナキ旨二人
以上ノ証人
アル者、此
限ニアラス
千葉縣十一
月一
第一條 長
男死シ其遺
妻ヲ以テ亡
長男ノ弟ニ
妻セ候儀法

個毎ニ一等ヲ加フ

一二人以上共ニ犯シタル時

二兇器ヲ攜帶シテ犯シタル時

第三百八十條 強盗人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ

死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盗財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲メ臨時

暴行脅迫ヲ爲シタル者ハ強盗ヲ以テ處ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ醉迷セシメ其財物

ヲ盗取シタル者ハ強盗ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因

テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上十二年以下ノ監視

ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ

所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日

以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以

下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ

掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第

三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セ

ス

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又

ハ御指令ノ趣ニテハ其遺妻ヲ他ノ養女トナスト雖モ結婚不相成ニ付縱ヒ一旦生家へ復籍セシムルト雖モ第ハ結婚ハ不相成哉
 第二條 姓
 娘ノ婦女離縁復籍スルハハ分婉ノ上ニ無之候

ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

情ヲ知り虚偽ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ為シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト為シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

共再嫁致シ不苦哉
 第三條 前條不苦儀ニ候、既ニ乙家へ嫁スルノ後甲家前夫ノ遺胤ヲ分産スルハ最初該兒甲家ノ嗣子ニ非スハ甲家ニ於テ離縁ノ際婦女ノ籍ニ入ル定約アル上ハ乙家

因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト為シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

ニ於テ妻ノ
連子ヲ貫受
ル者ト同一
ニ看做シ養

子女ノ名義
ヲ以テ入籍
セシメ可然
哉

但戸籍上本
人類書ニ妻
タル前夫國
郡村族何ノ
誰遺胤ト記

載スヘキ哉
（指令）十一年
三月十日

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱
シテ他人ニ賣與シ又ハ重ネテ抵當典物ト爲シタル者
亦同シ

第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者
ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託
ヲ受ケタル金額物件ヲ消費シタル者ハ一月以上二年
以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲ヲ
ル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ルト雖モ官署ヨリ差
押ヘタル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以
下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者

第一條 伺
之通

第二條 婦
タル者夫死

七ヒシ日又
ハ離縁ヲ受

ケシ日ヨリ
三百日過キ

サレハ再婚
不相成儀ト

可心得事
但遺胎ノ徵

ナキ者二人
以上ノ証人

アル者ハ此
限ニアラス

ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ
未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第
三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セ
ス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受ケ

又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上
三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下

山梨縣年八

ノ監視ニ付ス

日伺

第四百一節 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナル

妊娠ノ婦女

一ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シ

甲家離縁ノ

タル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以

後未分曉前

上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

更ニ乙家ハ

第七節 放火失火ノ罪

再嫁スルモ

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタ

前後兩夫承

ル者ハ死刑ニ處ス

諾ノ上ハ不

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造

苦哉之旨本

物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

年七月十六

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋

日附第五百

舍ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

三十號ヲ以

テ相伺候處

婦タル者夫

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乘載シタル船舶汽車ヲ燒燬

死亡セシ日

シタル者ハ死刑ニ處ス

又ハ離縁ヲ

其人ヲ乘載セサル船舶汽車ニ係ル時ハ重懲役ニ處ス

受ケレ日ヨ

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積

リ三百日ヲ

シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役

過サレハ再

ニ處ス

縁不相成云

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二

々御指合ノ

月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

趣致承然ル

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六

ニ明治七年

月以上二年以下ノ監視ニ付ス

十月廿八日

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者

秋田縣同第

ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

二條御指合

但シ書ニ其

妻夫死後三

百日ヲ過キ

候ハ、後夫

フ迎候モ不

本邦去...

苦尤遺亂ナキ旨二人已上ノ証人有之者ハ此限ニアラスト有之又同八年三月廿五日名東縣ヨリ右御指令ノ主趣ハ全ク遺亂ノ有無ヲ檢スル為レ被存候然レハ戸主死シテ遺事再ヒ夫ヲ迎

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トテ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪

第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水閘ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シテ田圃廢坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖

フルカ又ハ他へ再嫁スルモ遺亂ノ有無ニ關スル儀ニ候哉ト相伺タル御指令伺ノ通ト有之因之視レハ三百日間再嫁ナラサル原因ハ一ニ前夫ノ遺亂有無ノ判然ナラサルニ據ルカ如シ果

ル爲メ堤防ヲ決潰シ水閘ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乘載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル

家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル

罪

シテ然ラハ
本件ノ如キ
ハ素ヨリ姓
娘タルヲ前
後兩夫公認
セシ上ニシ
テ疑似判然
タラサルノ
類ニアラス
若シ又仮令
兩夫ノ公認
スルモ妊娠
中再嫁スル
ハ人情ノ忍
フヘカラス
トセハ其遺

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ属スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡竹木其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三

亂分婉ノ上

圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

ハ三百日ヲ

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又

過サルモ再
嫁苦シカラ
サル筋ニ候
哉先般御指
令有之候趣
了得致兼再
應相伺候條
至急何分ノ
御指揮相成
度候也
附令十一月
二十八年二
日ニ

ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀棄シタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者

本邦去入ノ号要ノ長下

ハ三百日ヲ
過サルモ再
嫁聞届不苦
候事

和歌山縣

八年十月
九日伺

解養子脱走
致候ニ付其
女ハ後夫ヲ
迎候儀客年
十二月二十
八日付ヲ以
相同候處實
際ノ事由情
願ノ次第等

ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄
滅盡シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十
日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下
ノ料料ニ處ス

- 一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市
街ニ運搬タル者
- 二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ
自ラ火ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

更ニ詳細可
申出旨本年
四月三十日

付ヲ以テ御
指令ノ趣敬
承仕候右ハ

其養子平常
家事擔當奉
家之ニ頼テ

生活相立居
候處未キ出
生無如何ナ
ル思慮ニマ

養父母并妻
ニ不告シテ
該家ヲ立出

本邦法人
馬場
三

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ烟火其他火器ヲ玩ヒ
タル者

五蒸氣器械其他烟筒火竈ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル
規則ニ違背シタル時

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修
理ヲ爲サ、ル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セ
ス又ハ他所ニ移シタル者

九人ヲ殴打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十一人ノ住居セサル家屋内ニ潜伏シタル者

三
萬
三
三

行衛不知
既一周歲
然ルニ養父
母先齡家業
ヲ營ム能ハ
ス故ニ父母
及其女且親
族一同協議
ノ上後夫ヲ
迎ントス然
ルニ其女右
脱走ノ養子
ト夫妻ノ名
義未タ消滅
不致ヲ以直
チニ後夫ヲ

十二定リタル住居ナク平常營生ノ產業ナクシテ諸方
ニ徘徊スル者
十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者
十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲ノ偽證シタル者但被
告人偽證ノ爲メ刑ヲ免カレタル時ハ第二百十九
條ノ例ニ從フ
第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五
日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下
ノ科料ニ處ス
一 人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ盛リニ火ヲ焚ク者
二 水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦スヘキノ求メヲ
受ケ傍觀シテ之ヲ肯セサル者

迎候儀モ難
相成仍テ難
録ノ儀實家
ヘ示談セン
トスルニ數
年前死絶シ
テ親族ナラ
テ無之親族
ノ者モ敢テ
其示談ヲ拒
マサレトモ
其夫ノ心中
難測容易ニ
承諾難致事
情モ有之去
迎後夫ヲ不

三不熟ノ菓物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者
四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防
規則ニ違背シタル者
五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ
蓋又ハ防圍ヲ爲サル者
六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ啖シ又ハ驚逸セシメタ
ル者
七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者
八在犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者
九變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル者
十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者
十一神祠佛堂其他公ノ建造物ヲ汚損シタル者

本邦去令彙編 卷下 頁三 萬國公報

迎テハ目下 營生ノ道無 之情實不得 已ヲ以後夫 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三 日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以 下ノ科料ニ處ス

ヲ迎度音願 出候ニ付相 伺候儀ニ有 之然ルニ本 年第二十二 號御省日誌 鳥取縣伺ヒ 御指令ノ趣 準據スレ

ハ右等モ同 様二十四ヶ 月ヲ經過セ 十二公然人ヲ罵詈嘲弄シタル者但詠ヲ待テ其罪ヲ論 ス

一濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者 二制止ヲ肯セスシテ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽 キタル者 三夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者 四木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケヌ又ハ標識ノ 點燈ヲ怠リタル者 五瓦礫ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者

シ上ハ開届 可然哉再應 相伺候也 指令ハ昨十 四

書面伺ノ趣 無餘儀事情 二付養實親 威協議連印 ヲ以テ離縁 願出候ハ、 二十四ヶ月 以内タリト

モ再養子ノ 儀開届不苦 候事 六禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者 七汚穢物ヲ道路家屋園圃ニ投擲シタル者 八警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者 九醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者 十死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者 十一流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者 十二妄ニ吉凶禍福ヲ説又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑 ハシテ利ヲ圖ル者

十三私有地外へ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出 シタル者 十四官許ヲ得スシテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キタル者

本邦法律令編纂 卷下 萬葉集

千葉縣六年

十月五日

明治七年十月

月二十七日

別紙ノ通相

伺同年十二月

月九日御指

令相成候處

右ノ内第二

條夫漂流踪

跡ヲ失ヒ生

死不分明ノ

者ノ遺妻ハ

後夫ヲ迎ヘ

候條件篤ト

其餘理ヲ審

十五路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者

十六道路橋梁其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者

第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ料料ニ處ス

一官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ取賣シタル者

二渡船橋梁其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨ケタル者

三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サスシテ通行シタル者

四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者

五官許ヲ得スシテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背シタル者

六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚ハサル者

七制止ヲ肯セスシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者

八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ又ハ牧畜シタル者

九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者

十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

按スルニ舟乗漁業ニテ漂流スルモノハ一家ノ父母妻孥ヲ鞠育セシカ為シ風濤不測ノ險ヲ犯シテ航行シ颶風又ハ非常ノ災變ニ遭遇シ之ヲ避ケルニ術ナク艱難ヲ極メテ他ニ漂流シ其生

死未ト確知
スヘカラサ
ル者ニテ他
ノ姓名ヲ湮
匿スルノ逃
亡及ヒ管廳
ニ陳告セム
シテ失踪セ
ル者トハ類
ル懸殊ニシ
テ同一ノ論
ニテラス然
ルニ二十四
箇月ヲ過キ
其遺棄之ト
解散シテ他

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五

十錢以下ノ科料ニ處ス

一 橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

二 牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

三 車馬ヲ並ヘ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

四 水路ニ於テ舟ヲ並ヘ通航ノ妨害ヲ爲シタル者

五 氷雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者

六 官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サル者

七 制止ヲ肯セヌシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

人ニ再醜シ
後夫ヲ以テ
前夫ノ跡ヲ
相續セシム
ルハ倫理止
穩當ニ無之
哉ニ付一家
ノ尸主タル
者漂流後ニ
十四ヶ月ヲ
經テ踪跡無
之且繼嗣タ
ル者ナキト
キハ他ヨリ
養子シテ之
カ相續メラ

八 牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者

九 出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十 通行禁止ノ標示ヲ犯シテ通行シタル者

十一 道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯セサル者

十二 酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉臥シタル者

十三 常燈ヲ消シタル者

十四 人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五 邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜標等ヲ毀損シタル者

十六 他人ノ田野園圃ニ於テ菜果ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

シムルヲテ 許シ其遺棄 へ後夫ヲ迎 へ候儀ハ如 何ノ事情有 之トモ不聞 届方可然哉 前同書寫相 添伺候也
十七公園ノ規則ヲ犯シタル者 十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入レタル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外各地方ノ便宜ニヨリ定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者ハ其罰則ニ從テ處斷ス

刑法附則ノ事

刑法附則別冊ノ通相定明治十五年一月ヨリ之ヲ執行ス 右奉 勅旨布告候事

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ

者ハ何年間ヲ經テ除籍致シ可然哉 一同斷ノ者ノ遺妻何月間ヲ經テ後夫ヲ迎ヘ不苦哉 一士族ニシテ同斷ノ節ハ何年間ヲ經テ其子孫家督相續聞届可然哉 稽令書面 第一條

典獄刑場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル後押丁ヲシテ之ヲ決行セシム但其期限ハ午前十時前トス

第二條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢リタル時ハ書記其始末書ヲ作リ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納ム可シ

第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フ事ヲ禁ス
元始祭 孝明天皇祭 紀元節
春季皇靈祭 仁孝天皇祭 神武天皇祭

本人年齢八拾歳以上ニ相成候ハ、除籍可致第ニ條第三條本人失踪後二十四ヶ月ヲ過キ候ハ、繼嗣ノ男アル者ハ家督ニ相立繼嗣ノ男ナキ者ハ遺妻ハ後夫ヲ迎ヘ相續候トモ不苦候事

六月大祓

秋季皇靈祭

神宮神嘗祭

天長節

後桃園天皇祭

新嘗祭

光格天皇祭

十二月大祓

第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ト申スル者ハ

醫師及ヒ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懐胎ナル

時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後

一百日ヲ經テ更ニ司法卿ノ命令ヲ受ケ決行スヘシ

第六條 死刑ノ遺骸ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊

請フ者アル時ハ典獄之ヲ許可シ下附スルヲ得

第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時

ニテモ典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルヲ得

得

同年十二月九日

指令十二月六日

第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ属籍氏名年齢職

業住所及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公

告ス可シ

刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前

犯罪ノ地

犯人住居ノ地

第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲シタル地ノ監

獄管理長官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ

地ニ護送ス可シ

第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ

復セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サ

ント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

東京府年五月十八日
當府士族照
島貞利ヨリ
實子無之ニ

付靜岡縣下
平民常時府
下廻町六町
目寄留中野
信成養子長
男信之儀ヲ
養子ニ致度
旨出願候ニ
付同縣へ裁
合ニ及候處
同人ヨリ其
旨本籍所屬
戸長へ届出
候趣回答有
之然ルニ當
府士族中是

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨ
リ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ノ許サレタル者又ハ流刑ノ
囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ
時ハ之ヲ許スヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨スヘシ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル
者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ
己ムヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出
ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯
シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直チニ其刑
ヲ執行スヘシ

送養子出願
ノ内養子長
男ヲ再ヒ他
家へ養子ニ
遣候先例無
之候得共雙
方熟議相整
出願ノ儀ニ
付聞届不苦
裁別紙相添
相伺候也紙
之畧

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服
セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サ
ント請フ者ハ典獄之ヲ許スヘシ

第十八條 服役限内ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後
犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ
及ヒ領置スル方法ハ監獄ノ規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ
於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於
ル亦同シ

書面之趣左
ノ通可相心

第二章 監視

得候事

凡養子タル

者再ヒ他家

ハ養子又ハ

相續人タラ

シ者ハ戸主

タルト否ト

ヲ問ハス斷

縁復歸ノ上

タル可シ若

シ復歸スヘ

キ原籍ナキ

者ハ斷縁ノ

上養家ノ附

籍トシテ他

家ハ養子又

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束

スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者

トス

第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシ

メ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警

察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得

タル者又ハ主刑ヲ免シ止タ監視ニ付スル者ハ其裁判

所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ起

算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ付

スヘシ

第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者

ハ相續人タル事ヲ得ヘ

シ

但前養家ハ

遺留ノ子孫

ハ勿論其他

未來親族ノ

續柄アル者

ハ其續柄ノ

通タル可シ

敦賀縣七月

七日

第一條 戸

主養子ニシ

テ其養家父

母モ亦タ其

ハ典獄若クハ警察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ

其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致スヘシ

第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送

致スル時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與

シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其地ノ警察所ニ差出サシ

ム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例

ニ從フヘシ

犯人ヲ送致スル時ハ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ

其地ノ警察所ニ送致スヘシ

第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テ監視ノ期限

間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ

第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條

初ノ養子ニ有之既ニ隱居シテ家ニ在リ然ルニ一旦事故アリテ夫婦斷縁シ養父實家へ復歸セズニテ養家ヨリ直ニ他へ嫁養子等ニ縁付候儀熟談ノ上願出候ハ、聞届不苦候哉但右養家ヨ

件ヲ遵守スヘシ
 一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ致ルハ能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシ
 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

リ復歸セハシテ直ニ他へ縁付候時ハ養父ノ名分脱却セサル可キ哉且養母遺胎シテ養家ニ在レハ夫婦斷縁ノ後タリトモ戸主ニ於テ養母ノ稱呼如故スヘキヤ

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアルヘシ
 第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送スヘシ
 第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
 犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納スヘシ

第二條 前條戸主養子第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シ

ニシテ其養父隱居ハ其家ニ生レシ者ニテ復歸ス所ナク事故アリテ他ヘ縁付候儀モ同様不苦候哉

但養父ハ他ヨリ入婿ニテ養母ハ其家ニ生レシ者ナラハ假令夫婦斷縁スルハ地主タル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ

第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル期限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限間再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後前後ノ期限ヲ通

ニ於テ養母ノ稱呼ハ無論タルヘキ哉

指令九年五月書面第一條 伺ノ趣允ノ養子タル者再ヒ他家ヘ養子又ハ相續人タラシ者ハ地主タルト否トヲ問ハス其養家ト斷縁實家ヘ復籍ノ

算シテ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ

上タル可シ
且養母ノ稱
呼ハ申出ノ

通タルヘキ
事 第二條
但書共伺ノ

愛媛縣廿
廿九
日 同

第一條 一
且戸主タリ
シ者除族ノ

刑ヲ受ケ該
家ニ附籍ト
ナリシ後チ

他家ノ相續
養子タラシ
一ヲ願出ル

片ハ一般附
籍者ノ例ニ
依ラス跡相

續人ヲ設ケ
サルモ聽届
可然哉

第二條 二
三男ヲ他ノ
附籍トナシ

直チニ他家
ノ養子タラ
シ一ヲ願ヒ

或ハ附籍者
ノ長男他家

許サレシ一ヲ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事
四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ

財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ期典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表

ノ養子トシラ
シテ願出
ルハ八聽屆
可然哉
猶念卅年
書面第一條
聞届不苦候
事 第二條
附籍トナリ
シ次三男ハ
元ノ籍ヨリ
養子ト可為
致長男養子
ノ儀一男子
ノ外事情取
亂其期限ヲ

シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又
ハ已ムコトヲ得ナル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハ
サル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコ
トヲ許サス
三事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申
請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許
サス
四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス
第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ
其家宅ニ臨檢スルコトアルヘシ
第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期満限ノ日ニ至

附屬不審條事
廣島縣十一年
月七日
例ノ内
第一條 養
女ヲ以テ再他
ノ養女道或
ハ他ノ入家儀
ハ明治八年御
省見誌第四十
八號前條
第二條御指
三條リ養男同
機賣家ノ復籍
ノ上更ニ他家
養子候儀ト
相心得候處

レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ
出シタル典獄ニ送送スヘシ
主刑満限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ
於テ第二章ノ例ニ從テ處分スヘシ
第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人
トキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置
スヘシ
第四章 刑事裁判費用
第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定
人通辯人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第
五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁
判費用ト爲ス

同十年御省 日誌第六編大 坂府向夫婦、 間一男子アリ

妻病死ニ假テ 後妻ヲ娶リ 女子ヲ携ヘ 來リ養女ノ名

ヲ以テ入籍シ タル者右男子

ト結婚スルハ 一旦斷縁他 一養女トセシ

上結婚屬致 可然哉御指 令ニ伺通尤

第四十九條 日當旅費及止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢 旅費一里拾錢

止宿料一宿二十五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼

出ル地ニ滞在中ハ日當并ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿

ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求ア

ルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百

九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干

ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要ス

ル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與スヘシ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル

前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收

ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ

還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害

者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由

リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者

ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒

縁女ノ名義
ヲ以テ入籍爲
致置候ハ、更
ニ他女トナス
ニ及ハスト有
之贓前縣ハ
御指令ニ

據レハ大坂府
伺ノ如キハ養
女ヲ一旦斷
縁シテ後妻
里方ハ復籍
ノ上更ニ實男
子ノ妻ニ貫
ト受ケ候筋ト
被存候處同

府へ御指令
八里方退轉、
處分方ト相
心得可然哉
第二條 養
男女ヲ再ヒ他
ハ養男女違
シ或ハ他ハ入
夫入嫁等致
シ候儀從來
ノ慣習ニ候處
果シテ不相
成筋ニ候得
者送入蕃届
出ノ節差止
候テハ不都

ムトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムル
ヲ得
第五十六條 贓物ノ受ケ又ハ典物トシテ受取リタル者
其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムトヲ得ス但典物トシ
テ受取リタル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルトヲ得
第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト
否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ
第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラ
サル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求
スルトヲ得
第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他
犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルト

合ニ付豫テ
管下へ布達
及ヒ置キ可
然哉
指令十一月廿
八日
第一條 大
坂府へ指令
ハ養女ノ名稱
ヲ削ル並ニ趣
意ニテ一旦斷
縁復歸ノ上
實家ヨリ更ニ
入嫁スルモ他
ノ養女トナリ
テ入嫁スルモ

ヲ得但失火ハ此限ニ在ラス
第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル
刑事裁判所ニ請求スルトヲ得若シ其審判已ニ終リタ
ル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルトヲ得ス
第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償
ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲ス
トヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式
ニ從フ可シ
第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ
其相續人ニ對シ之ヲ要求スルトヲ得
第六十三條 贓物ノ還給損害ノ宣告ヲ受ケタル者還給
賠償セザル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限

妨ケテ儀ニ
可有之候事

ノ處分ヲ請求スルヲ得

但盤前縣へ
指令ハ更

本邦
現行法令掲要卷之下終

正相成候儀ト心得ヘシ

第二條 養女ノ養家ヨリ他へ嫁スル者ハ實家へ復歸スルニ及ハス管下布達ノ儀ハ
見合可申事

○(重)静岡縣 八年二月

當縣士族小野友五郎儀五十有余歳相成嗣子無之茨城縣士族

小守宗忠長男熊次郎ヲ養子致シ度旨願出右ハ無余儀事故有之他家ノ長男ヲ養子ニ
賞受候儀ニ付事實相糺候處別紙ノ通り申立候ニ付聞届可然哉相伺候也

指令 八年二月 書面伺ノ通り

別紙 私儀元空閣藩ニテ文久年間天文測量曆術ヲ以テ舊幕府ニ仕ヘ引續キ長崎表

ニ於テ西洋算學並航海測量其他傳習ヲ受ケ以來東京ニ於テ教授イタシ居右學術ヲ
以テ子孫相續仕度志願ノ處嗣子無之依テ今般父方甥ノ續茨城縣士族小守宗忠ニ次
三男ハ有之候得共未夕幼年ニテ私儀老衰教導モ無覚束依テ親類熟識ノ上右長男熊
次郎ヲ養子仕度殊ニ私老母遺言モ有之情實難默止且熊次郎事算學測量等熱心ニ御

坐候間願ノ通り御聞届ノ程奉願候也

長崎縣 八年二月 家督相續ハ必總領ノ男子タルヘキ旨明治六年第五十一號公布第

一章改正ノ通ニ有之候處本家未家ノ間血縁有之本家ニハ女子ノミニテ男子無之未
家ニハ長二男有之嫁娶ノ都合ニヨリ未家ノ長男ヲ本家ノ養子ニ取結不苦哉又ハ本
末ノ譯ヲ以タトヘ未家ニハ他ニ男子無之トモ雙方熟談ノ上ハ本家ノ養子ニ相成候
モ不苦哉相伺候也

指令 八年三月 書面伺ノ通り

和歌山縣 八年五月 士族戶主ノ長男ニ出生セシ長男即戶主ノ長孫ナル者ヲ他家へ

養子ニ差遣度旨願出候者有之右ハ該家家督相續ノ順序ニ於テ本脉嫡統ノ者ニ付不
相成筋ト存候得共其本人祖父ノ家督ヲ直ニ繼承スヘキ者ニ無之祖父隱居或ハ死
亡ノ上ハ順脉ノ通其父家督相續可致ニ付他へ養子ニ差遣候トモ於該家別ニ支梧ノ
筋無之就テハ不得已事情有之分ハ縱令長孫タリトモ聞届不苦哉相伺候也

指令 八年十二月 書面伺ノ趣長孫ハ該家嫡統ノ者ニ候得ハ祖父戶主ノ際ニシテ直

ニ繼承スヘキ者ニ無之旨ヲ以他家へ遣候儀ハ決シテ不相成候條都テ長男同様ニ指
心得親戚中血統ノ男子無之者養子ニ賞受度雙方情實不得已時親戚協議連署願出候
得ハ聞届不苦候尤一男子ノ外男女子無之者ハ本家相續ヲ除クノ外他家へ養子ニ遣

候儀ハ何分ノ事情有之共難差許候事

〔三重縣〕十年七月 男子タル者ハ本家相續ノ外他ヘ縁組ノ儀何分ノ事情有之候共不

相成御成規ニ候處男女子兩人アリ惣領ハ男子 不得已事情ヨリ近親内ヘ遣シ候儀親

戚協議二人以上連署出願候時士民ノ別ナク聽届不苦旨新律附例解第百十一條立通

違法上記小倉縣御指令ニ相見ヘ右近親トハ現今肉縁アルモノニ限ルヘキ哉或ハ

本末家及ヒ五等親内ヲ總稱スル儀ト相心得可然哉

〔指令〕十年十一月 事情不得止者ハ親族他人ニ不拘養子ニ差遣シ候儀聽届不苦候事

〔高根縣〕十年四月 管下伯耆國第十六大區一小區日野郡黒坂宿平民飛田カミヨナル

者戸主ナル實兄並實母トモ斷リナク家出今ニ復歸不致候處獨身ニテ追々貧困ニ差

迫リ候趣ヲ以テ他ヘ婚嫁ノ儀願出候處母兄共脱籍中ニ付自然一家ヲ廢シ候姿ニ候

得共情實不得已者ニ付聞届可然哉本人願書相添相伺候也

〔指令〕十年五月 書面伺ノ通聞届不苦候事

〔東京府〕十年九月 士族平民ノ内事故有之獨子獨孫ヲ他家ヘ養子又ハ入夫等ニ差遣

候儀出願候節ハ是迄經伺ノ上及指令候處本年第六十号公達ニ據リ家名ヲ廢シ候儀

ト雖凡地方廳限リ聞届不苦事ニ相成候ニ付テハ前文ノ出願モ地方廳限聞届可然哉

相伺候也

〔指令〕十年十一月 書面ノ趣獨子女他家養子ノ儀ハ従前ノ通本人願書相添可伺出儀

ト心得ヘシ

〔蓋飾磨縣〕八年十一月 戸主ニ養子アリ壯年ナレ凡多病ニ相續難爲致片ハ養實

熟議ノ上離縁スルニ非ラスシテ更ニ養子ヲナシ家督相續爲致候儀ハ長男事故アリ

二男等相續差許スニ比疑シ聞届可然哉

〔指令〕八年十二月 伺ノ通

〔愛媛縣〕十年九月五日 獨身ノ戸主幼少ニシテ一家ヲ經營スル能ハサルヲ以テ年長

ノ者ヲ養子トシテ該家ヲ相續セシムルヲナス赤貧ニテ糊口ニトナシ後見人ニ

相立不苦哉

〔指令〕十年十二月 養子ヲ以テ後見人ト致シ候ハ不都合ニ候得共實際赤貧等不得已者

ニ候ハ、相續人肯受ケ其身嗣子ト相成候ハ苦シカラス

〔東京府〕九年二月 當府士族岩崎茂實長男茂遂病死ノ處外男女子無之候ニ付亡

同人妻コト儀ヲ里方同府士族鈴木善軌ト熟談ハ上更ニ養女ニ致度旨出願右ハ雙方

協議上ヨリ出テ候事ニ付聞届可然哉先例モ無之儀ニ付願書相添一應相伺候也

〔指令〕九年二月 書面伺ノ趣ハ一旦復籍ノ上更ニ養女トスルハ不苦候事

〔東京府〕八年十月 華士族ノ隱居或ハ戸主ニアラサル尊屬ノ輩他家ヨリ男女子

本邦法令摘要 卷下 頁 萬載閣藏

ヲ貴受養育致度段願出候者有之右ハ雙方便宜ニ出ツルト雖モ名儀上不都合ノミナ
ラス父子ノ間柄等心配出來候哉ニ存候ニ付格別ノ申立無之分ハ不聞届可然哉相
候也

〔指令〕八年十二月二十七日 書面趣不相成儀ト可心得候事

〔福島縣〕九年十二月廿八日 壯年ノ戸主未タ妻帯セサル者ト雖モ病弱ト否ラサルト
ヲ問ハス親生ノ子ナケレハ他ヨリ相續人相定メ不苦趣御指令ニ候處戸主ニ非サル
嫡子嫡孫ニシテ生子ナク養子ヲ迎ヒ度旨願出ノ者有之又ハ其家相續人ニ非ル尊族
及昇族ノ親ニシテ養子致候向モ有之謂レナキ事トハ存候得共何レモ聞届不苦哉

〔指令〕十年二月 戸主ニ非スシテ養子致候儀ハ尊屬昇屬共不相成候事

但嗣子ナル者壯年ニ及ヒ實子無之時養子イタシ候儀ハ不苦候事

○〔愛媛縣〕十年九月五日 實子長二三男共廢疾又ハ事故有之養子ヲ以テ相續人ト
定ムルハ長二三男養子共各年長ヲ以順序可相立哉ノ旨去ル八年一月二十五日當
縣相同候處伺ノ通ト御指令有之就テハ養子長男ヨリ年長ナルハ養子ヲ以テ長男
トナシ實長二三男ハ順次繰リ下クルハ勿論右養子離別ニ及ヒ再ヒ養子ヲ迎ヘ候節
其養子年齡實子ノ長男ヨリ少ク二男ヨリ長シタルハ養子ヲ三男トシ二三男ハ再
ヒ繰リ下ケ可然哉

〔指令〕十年十二月十四日 實子アル者養子ハ實子長次男ノ次ニ記載シ相續ノ旨ヲ願書シ置ク
ヘシ但最前指令ハ改正ノ儀ト心得ヘシ

〔岩手縣〕十年七月二十三日 第一條 平民ノ戸主死去遺留ノ男子幼穉且相應ノ後見人モ
無之ニ付家母ヘ後夫ヲ迎ヘ右男子成長ノ上家督ニ可相立契約ヲ定置候節其後夫ハ
相續人ト稱シ男子ヨリハ繼父ト唱ヘ可然哉男子ノ肩書如何取調可然哉

第二條 幼少家督ノ者後見人死没或ハ事故有之他ニ保助ヲ可受相應ノ者無之一家
ノ興廢ニ係リ不得已家母ヘ後夫ヲ迎ヘ相續人ニ相立前戸主成長ノ上再家督讓受ノ
契約ヲ定メ願出候者間々有之候處事情不得已次第ニ付聞届可然哉

第三條 前條ノ場合ニ立至リ候節ハ其稱呼右第一條共異ナル次第ニ付後夫ヨリ前
戸主ヲ先代ト稱シ前戸主ヨリ後夫ヲ繼父ト唱フルモ不穩様被考候戸藉上如何取調
可然哉

〔指令〕十年九月三日 第一條 稱呼ハ伺ノ通男兒ノ肩書ハ前父ノ子ト記載シ其事由ヲ詳カ
ニ願書シ置ヘシ 第二條 平民ニ候ハ伺ノ通 第三條 當戸主ヘハ先代誰相續
人ト肩書シ他ハ第一條指令ノ通心得ヘシ

〔三重縣〕十年七月廿一日 實子アル者養子ヲ以テ相續人トスル時其實子ヨリ其相續人ヲ
指シ養兄ト稱スヘキ哉或ハ單ニ相續人ト稱スヘキ哉

〔本邦法〕令 賜 要 卷下 第九 萬 枝 閣 藏

但養子相續人跡實子ヲ以テ繼嗣スルト否トノ約束ニテ稱呼ノ區別可有之哉

〔指令〕十年十一月十一日 長幼ニ隨ヒ兄弟ノ稱呼ヲ可用事 但區別ハ無之候事

○〔三重縣〕八年五月二十日 戶主脫籍逃亡日數五十日以外歸ラサルハ士族祿ヲ收メ家族ヲ民籍ヘ編入ト有之右期限外行衛一切不相知其家相續方親戚等ヨリ願出實子無之節ハ其遺妻ヘ入夫イタシ相續聞届不苦ヤ

〔指令〕八年九月十四日 逃亡後二十四ヶ月ヲヘテ猶歸サレハ願ノ通聞届不苦尤其夫ト解縁ノ上ニ候ハ勿論ニ候事

〔三重縣〕十年七月三日 戶主死去跡相續ノ儀士族ハ五十日忌明ヲ以テ相續申付平民ハ死去後届出ノ日ヲモツテ戶籍上戶主替リ加除仕來候處地券狀ノ儀ハ跡目後書替ノ期限モ有之且當今士族商業等開店ノ者忌五十日內ハ出願筋渾リ候譯ニテ自然家業ニモ関シ候儀ニ付今後士民ノ別ナク戶主死亡後直ニ跡目相續聽届忌服ノ儀ハ御成規ノ通ト相心得不苦哉

〔指令〕十年十一月一日 相續ハ申付ルニ及ハス候條本人願書ヘ直ニ指令ニ及ヒ苦カラス服忌ノ儀ハ伺ノ通

○〔美濃縣〕八年十月廿九日 當主養子壯年ナリト雖モ疾病若クハ事故アリテ養家ヲ保續スル能ハス且嗣子及血統ノ內其家ヲ繼承スル者ナク其妻家女タルヲ以テ家督相續

爲致其身ハ實家ヘ立戻リ度段雙方熟議連署ヲ以テ願出候ハ、聞届可然哉

〔指令〕八年十一月十五日 戶主タル養子離縁ノ儀雙方熟議連署ヲ以テ尊屬ノ親ヨリ願出候ハ其事情取糺シ一家ノ浮沈ニモ関シ候事故有之候ハ、聞届不苦其場合ニ於テ繼承マヘキ者ナケレハ離縁ノ家女ヲ以テ相續爲致不苦候事

○〔平廣嶋縣〕八年二月二日 家督相續ノ子女無之者病死又ハ隱居ノ際尊屬ヲ家督ニ相願候分ハ聞届可申等候得共平常ニテハ實子出生ノ程モ難計ニ付不相成儀ト相心得可申哉

〔指令〕八年三月三日 伺ノ通

○〔望〕節磨縣 八年十月廿九日 平民ニシテ絶家スル者アリ其再興ヲ謀ルモ血統ノ男子無之ニ付親戚ノ女子ヲ以テ一時家督爲致追テ養子普受度段親族連署願出候者有之右ハ

宮城縣同御指令ニ繼承スヘキ相應ノ男子無之節婦女子ニ相讓リ候儀ハ戶主ノ母妻女孫云々ト有之右ニ據レハ玄孫等ノ親戚ニテハ難聞届儀ト被存候然ルニ女子ト雖モ氏分家ノ儀ニ候得ハ筑摩縣同御指令ニ比擬ニ聞届可然トモ相考候固ヨリ分家家督ニ於テ權衡ノ差等ハ可有之候得共其戶主タルハ同一ノ儀ト被存右ハ何レニ準據シ可然ヤ

〔指令〕八年十一月十五日 絶家ノ名跡親戚ノ女子ヲ以テ一時家督爲致追テ右女子ハ夫ヲ向

候儀不苦候事

○置千葉縣八年四月廿一日 一戸主病疾等ニテ隱居シ父隱居再相續人トナル者往々有之右前戸主別長 其後病氣平愈直ニ當主ノ嗣子ト為リ更ニ家督相續願出候ハ、聞届不苦哉

一前條其嗣子トスルヲ願ハサルモノハ他家へ相續人ニ差遣シ候モ不苦哉

一前條ノ如他家ニ差遣候片ハ再相續人當主ノ家督ハ嫡孫承祖ヲ以テ相繼キ候儀ト心得可然哉

指令 八年五月 書面第一條 同ノ通 第二三條 實長男疾病平愈候上ハ他へ嫁付候儀不相成再相續イタシ候父跡相續候儀ト可相心得事

○置置賜縣九年三月廿日 婦女子相續ノ儀ハ當主死去後嗣子無之婦女子ノミニテ不得已事情アリテ養子難致者ニ限リ允許可致ノ處順序ノ儀ハ長次女有之時ハ家督

相續ハ必總領ノ男子ニ準據シ長女へ相續為致可然存候ハ共若シ母妻姉妹ノミニシテ女子無之時ハ順序何ノ當ト見做シ相續為致可然哉但婦女子相續ノ儀ハ一切順序ニ拘ハラヌ親戚ノ協議ヲ以相定メ出願候者へ允許可然哉

指令 九年六月 婦女子相續ハ順序ニ不拘親族ノ協議ニ任スヘキ事

靜岡縣 十年十月 一士族平民亡跡家女ノ遺妻相續罷有候處事故有之他家へ嫁付シ

ト欲スル者跡相續ノ儀差向養子貴受候都合ニ至リ兼因テ本人實妹或ハ實姪ヲ以テ繼承取計不苦哉

一前條ノ場合ニテ其妻他ヨリ嫁シ來者ニテ本人實妹或ハ實姪ノ續キヲ以テ繼承取計不苦哉

指令 十年十二月 書面第一條 同之通 第二條 聞届不苦候事

千葉縣 九年十二月 子女無之シテ弟妹等有之戸主疾病其他ノ事故ニテ隱居候節ハ豫テ弟妹ノ弟ケレハ其弟ヲ繼嗣トシ弟等ヲ繼嗣ニ致シ相續可為致儀ニ有之候得共弟妹等ヲ以テ繼嗣ニ相定メ候順序ノ儀ハ弟妹中ニテ年長ノ者ヲ可相立儀ニ候哉又ハ戸主ノ存意親戚ノ協議ニ依リ長幼ニ拘ハラヌ適宜相定不苦哉

指令 十年四月 必スシモ長幼ノ順ニ拘ラス戸主ノ存意或親族ノ協議ヲ以テ適宜ニ相定候儀不苦候事

○置岐阜縣 九年十二月 弟相續ノ節ハ養子ト稱セス相續人ト可稱苦候處養子ノ戸主病死養家親族ノ内相續人無之ニ付實家弟ヲ以テ相續為致候節異姓ノ者ニハ候得共相續人ト稱シ可然哉或ハ異姓ノ廉ヲ以テ養子ト稱シ可然哉若シ養子ト稱スル儀ニ候ハ、尊長ノ内ニテ相續致候節ハ稱呼如何相心得可然哉相伺候也

指令 十年一月 書面同ノ趣ハ相續人ト可稱事

熊本縣九年二月 第一條 弟ヲ以テ養子トスルハ不相成相續ノ儀ハ弟ノ儘不苦

旨ニ候處本年七月陸軍省日誌中新瀉縣伺ニ別紙寫ノ通御指令有之然ル處根元父子

ノ契約無之モ嗣子ノ名ヲ下シ候儀至當ヲ得可申哉相續人トハ該家繼承後ノ稱呼ニ

シテ未タ戸主アル内ハ假令ヒ相續人ト相定候テモ内場ノ約定ノミニ付戸籍上ニ勝

記スルモノニハ無之哉ニ被考候得共右御指令ノ通ニ候得ハ豫テ相定置キ養子同様

ノ者ニ相見ヘ就テハ戸籍上相續ノ弟ト記載スヘキ哉又ハ嗣子ト記載可然哉

但嗣子ト記載スルハ徵兵名簿ノミニテ戸籍上ハ相續ノ弟ト記載スル時ハ忌服モ

元ノ續柄ヲ以テ相受候儀ト被存候

第二條 右相續人ノ儀ハ弟ノミニ限ラス家族ノ者ニシテ養子ト難致モノハ伯叔甥

從弟等都テ同斷ニ可有之哉

第三條 弟養子ノ儀ハ前條ノ通ニ候處妹ヲ以テ養女トスルモ不相成筋ニ可有之哉

指令 十年一月 第一條 生前弟ヲ相續人ニ定置候儀不苦戸籍上ニハ相續スヘキ者

ト額書スヘキ事

但徵兵名簿記載方及ヒ服忌ノ儀ハ伺ノ通

第二條 尊屬及ヒ弟又ハ尊屬及妹ヲ配偶スヘキモノヲ相續人ト稱シ候事

第三條 伺ノ通

神奈川縣十年四月 當主壯年疾病等ニテ一家ノ保護難成因テ縁故有之者ハ其家ヲ

繼承爲致度候處若當主ヨリ年長スル時ハ養子ト稱スルハ倫理ニ於テ不當ト存候ニ

付當主ハ直ニ隱居イタシ繼承ノ者ハ相續人ト稱シ可然哉右ハ元宮崎縣ヨリ同様

伺出ノ趣有之候處追テ何分ノ指令ニ可及旨八年御省日誌第二十号ニ相見ヘ其後如

何御處分相成候哉相伺候也

指令 十年四月 書面年長養子ノ儀聞届不苦候事

東京府十年八月 嗣子無之外孫ヲ以テ養子ト為シ家名繼承スル時ハ親屬ノ倫序錯

亂可致候間養孫ノ名義ヲ以テ家名繼承爲致可然哉相伺候也

指令 十年九月 書面伺ノ趣外孫ヲ養子ト稱シ不苦候事

○聖島取縣八年四月廿 士族ノ一家ニ長二三男アリ其長二男ハ兼テ他家相續セリ

實家ハ三男ニテ相續ノ積然ルニ右長二男ノ内離縁ト成リ復歸ノ後更ニ他家ヘ養子

ニ遣シ度旨伺出有之明治六年第二百六十三號公布ノ旨趣ニ據レハ一旦他家ヨリ復

歸候者ト雖モ實子ノ儀ニ付順序ヲ以家續ニ相立可申條理ニ有之乍去最初ヨリ三男

ハ家續爲致度譯有之儀ニ付是等其親ナル者ノ存意ニ任セ可然哉

指令 八年五月 書面家督相續ハ必ス總領男子ト可相心得若シ二三男ニ相續致サセ

ス候テハ難相成不得止事情有之候ハ、其事由ヲ詳細取調親族連印ノ願書相添更ニ

本邦法令摘要 卷下 百一十 萬皮問 歲

可伺出儀ト可相心得事

〔山形縣〕同年十月四日 第二條 華士族平民假令ハ男女子三四人アランニ長女年長ニシテ長男年少ナルトキ女子ト雖モ年長ノ故ヲ以テ家督相續為致不苦哉又ハ男子有之トキハ年少ト雖モ女子ヲ措テ相續可為致哉又ハ父祖ノ撰ニ任セ之ヲ上下スルモ妨ナキ哉

第三條 假令ハ本家分家トモニ男女子アランニ本家ハ獨リ女子ノミニテ分家ニ男子アルトキハ其當主ノ撰ヲ以テ女子ヲ措テ分家ノ男子ニ相續為致不苦哉又ハ其女子不埒ノ所業有之ニ非サルヨリハ父祖ト雖モ順序ヲ越ヘ勝手ニ取計不相成哉

〔指令〕二十三年十月 第二條 明治六年第二百六十三號公布第一章ノ通り可相心得候事 但長男ナレハ姉女ノ有無ヲ不問スヘテ總領男子ト可相心得事

第三條 本家女子ノミニシテ男子無之候ハ、其長女ハ分家男子又ハ其他ヨリ婚養子致候儀ト可相心得事

〔百川縣〕同年十月八日 第三條 當主亡没跡長男アレハ未ク幼年ニシテ相續スルヲ不得故ニ當主ノ弟叔父相續イタシ男子數名出生ス其後家督相讓リ候節ハ嫡流ノ譯ヲ以甥子ニ繼承為致候方可然カ又ハ家督相續ハ必ス總領ノ男子タルヘク云々公布ノ通ニテ嫡流ニハ關係不致儀ニ候哉尤熟該ノ上ハ情願ニ任セ不苦候ヤ

第四條 後家長男ヲ家ニ置キ二三男召連再嫁スルモ現夫ヨリ右連レ子ヲ養子ト見做シ可申哉ノ段本年二月名東縣ヨリ相伺候處妻ト現夫トノ約定ニ因テ養子或ハ厄介附籍トスルヲ得ヘク御指令有之然ルニ現夫ヘモ男子アレハ年ノ幼長ヲ以長二三男ト定メ實子ヨリ養子年長スレハ養子ヲ以テ家督為致可然哉

〔指令〕二十九年十一月 第三條 戶主亡没ノ際遺留男子アレハ其幼穉ノ論ナク直チニ戶主ニ可相立充幼少ニテ家督相續為致候者ハ其幼者ノ財産ニ就テ有益ノ者ヲ親族及他人ノ内ヨリ相撰ミ後見可為致儀ト可相心得事

第四條 家督相續ハ必實子ヲ以繼承スヘキ儀ト可相心得事

〔鳥取縣〕七年十一月 戶婚律立嫡違法ノ條ニ嫡長子孫ト有之ハ嫡母ノ長子長孫ニシテ其庶子ト云ハ渾テ妾腹ノ子ニ限候ハ勿論ニ可有之一夫一妻ニ至テハ長男ト云モ嫡子ト云フモ同様ナルヘク若シ未タ本妻アラヌ或ハ有之トモ所生ノ子無クシテ妾ニ子アラハ渾テ庶子トシ爾後其庶長子ヲ該家相續人ニ相定メ候時ハ之ヲ嫡長ト心得可然哉戶籍法嫡孫承祖ノ明文アリ長男ノ明文アリ而シテ嫡子ノ明文ナシ然ルニ同法書式中次男妾腹何ノ誰ト有之ニ就キ尚推考スレハ假令妾腹ノ子ト雖初生ナレハ總領ノ男子トシ該家繼承ノ者ト相定メ敢テ妻妾異系ノ論ニ及ハサル様ニモ相見ヘ候得共是等ハ書式ニ拘ハラヌ前頭律面ニ依據可然哉

指令九年一 相續ニ定リタル男子ハ嫡出庶子ヲ不論初筆ニ記載スルト雖其他ノ庶子ハ長幼ノ順序ヲ以嫡出ノ子ノ次ヘ記載スヘク其相續方ノ儀ハ固ヨリ律面ニ依據可致儀ニシテ妻妾異系ノ論ニ不及ト申儀ハ決シテ無之候儀ト可相心得尤明細書式ノ儀ハ詮議ノ筋モ有之候條追テ可及指令儀モ可有之候事

和歌山縣七年一月 長男妻腹ニ出二男脉統ノ家女ニアリ然ルニ其父主ハ他ヨリ該家ノ養子トナリテ其家ヲ繼承スル者ニ付順序ノ通長男ヲ家督相續人ニ致候テハ其實本脈斷滅ニ屬シ候間二男ヲ相續人ニ致度段親族協議ノ上連署出願候者有之右ハ妻妾トモ均シク二等親ニシテ其出生ノ兒輩ニ於ルモ素ヨリ嫡庶ノ別ハ無之總テ順序ノ通長男ヲ以相續人ニ致候儀繼嗣上一般ノ御規則ト相心得候ヘ共前件ノ如キ該家ノ本脈其二男ニ歸着候儀ニテ戶主ノ情願亦無餘儀相聞候間右ハ聞届不苦哉相伺候也

指令九年一月 書面固ヨリ嫡庶ノ別有之候ニ付嫡妻ノ長男ヲ立テ候儀當然ノ事
名東縣九年一月十日 妻腹ニ女子アリ妾腹ニ男子アリ右妾腹ノ男子他家ヘ養子ニ差遣度願出候節ハ聞届不苦哉

指令九年二月 嫡出ノ男子無之時ハ妾腹ノ長男他家ヘ養子ニ遣シ候儀不相成候事
福島縣八年三月十日 茲ニ駕養子ノ戶主アリ曾テ女子ヲ奉其妻即チ死シテ他ヨリ後

妻ヲ迎ヘ男子ヲ生ミ家督相續法ニ據リ妾腹ノ男子ヲ以テ其家ヲ繼承セシムヘキノ處血統ノ斷絶スルヲ憂ヘ長女ヘ駕養子迎ヘ相續爲致不苦哉

指令九年八月 伺ノ通
長崎縣十年一月 養子ノ儀ハ假令幾名首受候共戶藉上輩行ノ順序ハ其長幼ニ因リ記載シ可然候得共一時ニ男子三名ヲ養ヒ嗣子決定ノ儀ハ追テ成長ノ上人品相撰ヒ可届出旨願濟相成万一養父タルモ嗣子未定以前ニ死去候ハ三名ノ養子家督相續ニ於テ混雜可相生モ難計ニ付嗣子並ニ三男順序ノ儀ハ養子願出ノ節必ス爲相定候儀ト相心得可然哉相伺候也

指令二十年四月 書面嗣子未定以前養父死去候ハ親戚ノ協議ヲ以テ可相定親戚無之歟或ハ協議難相整儀モ候ハ長幼ニ依テ可相定儀ニ候故出願ノ節必ス爲相定候ニ不及候事

山梨縣十年七月 嘗テ甲家ノ次男乙家ノ婚養子トナリ一男ヲ奉ク然ルニ甲家ノ長男病死或逃亡等ニテ他ニ相續スヘキ血縁ノ者無之ヨリ甲乙兩家協議ノ上乙家ノ養子ヲ云フ離縁シ其子ヲ供テ甲家ニ復舊相續セシノ更ニ他家ヨリ妻ヲ迎ヘ尚男子出生ノハ最前乙家ニ於テ奉クル所ノ子ヲ長男トシ甲家ニ出生ノ子ヲ次男トシ繼嗣モ其順序ニヨリ相定ムヘキ哉又ハ實家相續ノ後出生ノ子ヲ以テ嫡嗣ト致スヘキ哉

相伺候也

指令十年七月 書面伺、趣先キニ奉ケタル子ヲ嫡嗣ト可心得事

○墨田縣八年十月二十 當主死去嗣子無之婦女ノミニテ止ムヲ得サル事情ヨリ養子難致者婦女子ノ相續差許シ追テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致シ直チニ其夫又ハ養子ハ襲續為致候女戸主ノ如キモ代數ヲ論シ候時ハ數中ヘ相加可申哉

指令八年二月 代數ヘ相加ヘ可申事

○墨田縣十年二月二十 戸主隱居ノ上分家願出候節次三男アルモノハ必ス其次三男ノ内ヲ嗣子トシテ共ニ分籍可為致節ニ可有之哉又ハ單身分家シテ後ニ職業等ノ都合ニ依リ本家ニ存在セル實次三男ヲ差置キ他ヨリ養子スル存寄ノモノハ其意ニ任セ不苦哉

指令十年三月 隱居ノ上分家ハ單身ニテモ可任存意候得共繼承ノ儀ハ次三男ニ相續為致候儀ト可相心得尤本文職業等ノ都合ニテ不得已事故有之者ハ格別ニ候事

○墨田縣九年十二月 本年太政官第五十八号御達ニ依リ有子ノ寡婦極貧ニテ子女ハ幼少且救助スル身元相應ノ親戚後見スヘキ者モ無之親族協議ノ上願出ツル節ハ事實取糾無相違モノハ後夫ヲ迎ヘ相續為致候儀可聞届候處他日其後夫ノ長男出

生候時ハ前夫ノ子女ヲ他ヘ養子女ニ遣シ後夫ノ實子ヲ以テ家督繼嗣為致不苦哉

指令十年四月 相續ノ儀ハ親族ノ協議ニ任セ候儀ト可相心得協議不諧ノ節ハ戸主

タル後夫ノ子ニ相續可為致尤戸主ノ存意ニテ先夫ノ子ニ譲リ候儀モ固ヨリ不苦候事

○墨田縣八年十一月 士族曾テ其藩主ノ許可ヲ得長男ヲシテ他家相續セシノ次男ヲ以テ嗣子トナシ家督スル後他家相續セシ長男病氣或事故有之依願退隱シ而シテ親族熟談ノ上實家ヘ復籍シ其後病氣平愈或ハ事故相解ケ候ヲ以テ當戸主其家ヲ實兄ニ譲リ長幼序相立度段親族共連印ノ上願出候節ハ當戸主疾病其他事故無之共聽届不苦ヤ相伺候也

指令八年十二月 書面伺ノ通

○墨田縣八年四月二十 一平民養父母死去ノ後養子ノ當主其實家ニ於テ相續人ニ差支離縁ノ儀養育親戚及本人熟談ノ上願出候者有之養家於テ更ニ相續人ヲ迎ヘ差支無之様親戚於テ取計候ハ、聞届不苦候哉

一前條士族ノ者ハ不聞届筋ニ候哉

指令八年五月 書面第一條 伺之通 第二條 士族ト雖雙方ノ情願相違ナキニ於テ

ハ第一條同様聞届不苦候事

○墨田縣八年一月 第二條 平民ノ内戸主養子ニテ病身又ハ無據事故ア

本邦法令摘要 卷下 頁五 萬葉開闢

リ實子或ハ養子ニ家督相續致サセ隱居致シ養費而家親戚及ヒ本人トモ協議離別ノ
末原籍ハ復歸致度旨出願ノ者聞届不苦ヤ

第三條 前同斷戶主隱居致シ家名ヲ相讓候上縁故有之他家ニテ相續人無之自他親
戚熟議ノ未該家ハ入籍致シ度旨出願ノ者ハ前同斷取扱可然ヤ

右第二三條ハ父ヲ離別シ又ハ他家相續為致候儀於倫理難差許第ニ候得共民間鄙俗
ノ沿襲ニテ及情願候節承届可然ヤ相伺候也

指令 八月四日 書面伺ノ通

○(窪塚縣) 八月九日 凡親族ト稱スルハ五等親以上ノモノヲ稱シ候ヤ又ハ當時血縁ハ無
之共該家ノ財産ヲ分チ分家致候者且先祖ヨリ由緒等有之同姓ヲ稱シ候者モ親族ト
相唱可然ヤ相伺候也

指令 八月十四日 書面伺ノ趣五等親以上ヲ親族ト稱シ候事

但現今血統ハ無之共其初ノ財産ヲ分チ分家為致候者及祖先ヨリ由緒等コレ有ル
者ハ親族ト稱セス本末家并同姓ト可相稱事

高知縣 九月六日 本年太政官第七十五号御布告中第二項二等親外ノ親屬タル
ハシト有之候儀ハ何等ノ族柄ニ適當可致哉

指令 九月十五日 五等親外ノ家族ト可相心得事

○(塚縣) 十一月六日 第一條 戶主退隱シ養女ハ家名相讓リ前戶主ハ則養分籍シテ一
ノ戶主トナリ其後宗家ノ養女夫ヲ迎ヘテ其家督ヲ讓リタル者ハ其夫ト最前分籍セ

シ前戶主ハ等親外ナルヤ又ハ何等ノ稱呼ヲ生スヘキ哉

第二條 前條ノ場合ニシテ前戶主分籍セス猶同籍ニ在ル者ハ養女ノ夫ハ前戶主ノ
家督ヲ承スシテ養女ノ跡ヲ繼キシモ猶前戶主ト養父子ノ稱呼ヲ生スヘキ哉

第三條 婚養子ノ名稱五等親中不相見右者總テ養子同様一等親ト心得ヘキ哉

第四條 前妻ノ子ヨリ父ノ後妻ヲ繼母ト稱候處繼母前妻ノ子ヲ如何可稱哉將々等
親外ナルヤ

指令 十一月八日 書面第一條 夫ヨリハ妻ノ養父ト稱シ養父ヨリハ養女ノ夫ト稱シ
等親内ト心得ヘシ 第二條第三條 伺ノ通 第四條 前妻ノ子ト稱シ等親内ト心
得ヘシ

○(窪塚縣) 八月六日 壬申七月太政官御布告第九十七号ヲ以人民實印他人ハ預
ケ候儀堅ク被禁止候處該家相續人幼少ニテ後見人有之者ハ其後見人ハ實印委託候

トモ不苦候哉且諸願届證書類等ハ後見人連印ノ上進退可致儀ニ候哉相伺候也
指令 八月九日 書面後見ニ附シ候時間ハ幼主ノ實印相用ユルニ不及候條該家ニ係
ル諸願届ハ勿論諸證書類共總テ後見人ノ實印ノミヲ以進退可致儀ト可相心得事

本邦法令集 卷下 頁六

○蓋高知縣廿二年一月 士族戶主幼少後見人相立候節親戚又ハ他人ノ内士族ニ限リ候ヤ平民ニテモ不苦候ヤ右ハ御成規無之ニ付相伺候也

指令廿七年三月 書面後見人ハ士民ノ差別ナク取設候儀不苦候事

○蓋若手縣廿一年一月 幼少ノ男兒及婦女ノ戶主ニハ士庶ヲ不論一般ニ必ス後見ヲ撰定シ幼兒婦女ノ戶主ト雖モ戶内ニ年長ノ親戚等アルモノハ別ニ後見ヲ不定候テ可然哉抑又其戶内人ヲ以テ後見ト為スヘキ哉

指令廿八年十二月 戶主幼少ニテ後見人ヲ撰ムニハ戶内外ヲ問ハス親戚又ハ他人ニテモ幼者身分家産ニ於テ有益ノ人物相撰候儀ト可心得事

但幼年ニアラサル女戶主ニ後見人ヲ置クニ不及

○美愛媛縣廿年九月五日 婦女子ニシテ自他幼者ノ後見人トナルハ聞届不苦哉

指令廿年十二月 女戶主ノ外婦女ニテ後見致シ候ハ不相成候得共自家ニ候ハ、家族ニ候共母祖母ニテ後見致シ苦シカラス

○蓋茨城縣廿年六月七日 後見人ノ儀ニ就テハ明治六年第二十八号公布ニ據リ戶主死亡後幼弱ノ嗣子或ハ婦女子等相續ニ限リ聞届來候處爰ニ平民ノ一戶主疾病ニテ農商ノ業ニ從事スル能ハス嗣子アルモ幼穉ニシテ不得已長女ニ婚養子ヲ迎ハ嗣子成長滿十五年ヲ以テ後見ヲ免ニ至ル養子ヲ以テ後見トシ家計ヲ調理セシムルノ

類又ハ前條ノ場合ニ於テ幼男子ノミニテ他ヨリ養子イタクシ後見為致候様ノ類親戚協議ノ上ヨリ出テ事實無餘儀モノハ聞届可然哉第二十八号公布ハ家名相續ノ部ニ出ツ

指令廿九年七月 嗣子相續ノ上ハ婚養子及養子等ヲ以テ後見ト致候儀不苦未タ相續セサル内ハ家計ヲ調理セシムルノミニテ後見ノ名目無之儀ト可相心得事

千葉縣廿一年一月 一戶主幼穉且赤貧ニ付母ハ後夫ヲ迎フル節ハ相續可相讓等ニ候得共一家ノ都合ニ因リ其後夫ヲシテ戶主ノ後見タラシムル事

指令廿一年二月 聞届不苦候事

○美敦賀縣廿八年五月十日 壬申第二十三十五号御布告ノ旨ニ據リ無餘儀情故ヲ以テ改名願出候ハ、地ノ遠近ヲ不問聞届可然哉又ハ願入ノ同郷又ハ其郡内及町村内ニ限り可申哉他ノ管地ニ同苗同名ノ者有之商業取引上差又候趣ヲ以テ改名願出候向モ有之ニ付相伺候也

指令廿二年六月 書面同名連稱ニテ實際商業等ニ差支有之趣願出候ハ、篤ト其事由ヲ取糾シ相違ナキニ於テハ改名ハ聞届不苦候得共改苗ハ不相成儀ト可相心得事

但本文ノ場合ニ於テハ遠近ノ區別無之事

高知縣廿八年七月廿日 苗字改稱ノ儀ハ不相成候處ハ通稱トヲト申候者寅ノ字或ハ虎ノ字相用候テハ不都合ニ付假名或ハ本字ニテニ様ニ相定可申哉又ハトヲ寅ノ

本邦法令摘要 卷下 頁七 萬葉集

字混用不苦候哉

〔指令〕八月十五日 寅虎二字混用候テハ不都合ニ付右ノ類ハ最初相名候分一方ニ爲取極可申候事

但假名字ヲ以書載候儀ハ不苦候事

〔三猪縣〕八月十日 改姓名ノ儀ニ付本年六月中敦賀縣同ヘ御指令ニ同苗同名連稱ニ

ニ實際商業等ニ差支有之趣願出候ハ、篤ト其事由取糺シ相違ナキニ於テハ改名聞

届改苗ハ不相成云々ト有之然ルニ右改名ノ者猥ニ他ノ姓ヲ冒ニ無之本姓ニ復シ度

旨ヲ以テ願出候ハ、聞届不苦ヤ相伺候也

〔指令〕八月十日 書面伺、趣由緒明白ニ候ハ、聞届不苦候事

〔筑摩縣〕八月十日 改名ノ儀ニ付テハ兼テ公布ノ次第モ有之候處士民其家ニ依リ

通字ト稱シ實名ノ父字暨世相用來候風習有之然ルニ假令ハ甲家ノ子弟乙家ヘ養子

相成乙家ノ通字ヲ以テ實名改稱候處離縁ノ上丙家ヘ養子相成其儘乙家ノ通字ヲ相

稱ハテハ甚不都合ニ付丙家ノ通字ヲ用ヒ改名致度願出候節ハ聞届サル儀トハ存候

得共為念相伺候也

〔指令〕八月十五日 書面ノ趣難聞届候事

〔長崎縣〕八月二十日 苗字名屋号改稱不相成儀ニ付士申太政官第二百三十五号

公布但書ニ同苗同名ニテ無餘儀差支有之者ハ管轄廳ヘ可願出ト書載有之候處右ハ

同苗同名連稱ニ無之同苗及同名一方ノミニテハ改稱不聞届譯ニ候ヤ且異字同音ニ

テ差支候向ハ聞届不苦ヤ右但書中無餘儀ノ文字ハ同苗同名ニ属シタル儀ニ候ヤ外

事故ニテ無餘儀差支候節ハ聞届不苦儀ニ候ヤ相伺候也

但シ商業取引上無揀事情有之願出ノ向ハ新治縣同濟ニ標據シ聞届居候

〔指令〕九月四月 書面第一條 同苗同名連稱ニテ事實無餘儀差支有之出願候節ハ取

糺シ無相違ニ於テハ聞届不苦旨趣ニ候條同苗異名異苗同名同音異字等ノ改稱ハ不

相成儀ト可心得事 第二條 無餘儀トハ同苗同名ハ勿論僧尼ノ輩與俗ノ際佛徒タ

ル時ノ名稱ヲ廢シ普通一般ノ俗名ニ更稱候歟又ハ商家ノ輩慣習ニテ代々其家ノ戶

主ト相成時ハ幼名ヲ廢シ世襲ノ名ヲ用ヒサレハ商業上差支有之趣出願ノ向ハ本文

同様篤ト其事由ヲ審查ノ上聞届候儀ト可心得事

〔長野縣〕十月一日 改名ノ儀明治五年第二百三十五号公布但書ニ據レハ同苗同名等

ニ限リ候様相見候得共法例彙纂第一卷第六章濱松縣同姓ノ者名其字體ヲ異ニシ

訓同シキモノハ改名聞届不苦哉伺ノ通御指令然ルニ八年御省日誌第十七号長崎縣

同ニ同音異字ハ改名不相成ト有之又第四十九号石川縣同縣士族權訓導加藤庄平

同勤中加藤昇平ト同苗同稱ニ付改名ノ儀同聞届不苦ト有之一事ノ御指令ニ途ニ岐

本邦法令要

卷下

夏八

萬載

萬載

萬載

萬載

レ候様相見候處實際ニ就キ之ヲ按スレハ姓名共同字同稱ハ勿論異字ニシテ同稱同字ニシテ異稱ノ分モ之ヲ帳簿ニ記載シ又ハ直ニ之ヲ稱呼スルニ何レモ混雜ノ憂テキ能ハス公私ノ差支可相成候ニ付同職中又ハ一村内ニ右ノ類有之改名出願事實無相違ニ於テハ總テ聞届不苦哉

〔指令〕十年二月 改名ノ儀ハ同姓名ハ勿論同姓名異姓同名ノ者ト雖モ其音訓稱呼ヲ同フシ實際上差支候モノハ聞届不苦從前指令ノ中右ニ抵觸ノ條ハ取消候儀ト可相心得事

○〔寔〕敦賀縣 九年一月 戶主死シテ嗣子無キ乎或ハ如少ナルカ其妻戶主トナリ家事ヲ執ルアリ戸籍面ハ寡婦ノ戶主ニ引直シ其家ノ職業取引ノ節ニ臨ミテハ其亡夫ノ名ヲ相用ト全ク一人兩名ニテ且其職業取引上ヨリ生ル訴訟等ノ事アレハ忽チ名實相違シ不都合ノ次第ニ候得共不得止ノ儀ニ付黙許ニ附シ置キ不苦候ヤ若シ不相成候ニ候ハ、其取引上ノ便否ヲ問ハス斷然其自名ヲ唱ヘサスル半然ラサレハ其女子ノ名ヲ改メ先夫男子ノ名ヲ襲ハシムルニ非サレハ全ク一人兩名タルヲ免レス如何心得可然ヤ相伺候也

〔指令〕八年七月三日 書面寡婦戶主ニ相立而シテ商業上ニ差支候迎亡夫ノ名ヲ襲ハシムル儀ハ難相成候條其婦ノ自名ヲ唱用可致事

但戶主死シテ嗣子アレハ如少タリトモ父跡相續爲致下父遺妻又ハ親族他人等ヨリ其如者ノ身分家産ニ於テ有益ノ人物ヲ撰ミ後見人ニ相立而シテ全ク商業上ニ差支有之故ヲ以テ其亡夫ノ名ヲ襲續爲致候儀ハ不苦候條相續ノ時先代ノ實印ニ不紛捺印面彫刻可致候事

○〔奉〕奈良縣 八年一月 兼テ御布告モ有之人民一般苗字並屋号トモ改正不相成候處僧侶ノ輩歸俗商業等致候モノ法名ニテハ差支俗名ニ相改度或ハ僧侶得度法名ニ相改度願出候者モ有之聞届不苦候哉相伺候也

〔指令〕八年二月 書面ノ趣聞届不苦候事

〔和歌山縣〕十年一月 僧侶得度及還俗ノ者改名ノ儀ニ付去明治七年六月正院ハ相伺候處平人ノ僧侶ト爲リ僧侶ノ平人ニ復シ候節ハ改名聞届不苦旨御指令ニ付爾來右ニ準據シ改名聞届居候處客年十二月第百五十六号ヲ以テ僧尼ト公認スル者、諸宗教導職試補以上ノ者ニ限リ候旨公布相成候ニ付テハ自今得度セシ者ト雖モ教導職試補以上ノ者ニ無之テハ即チ一般平民ノ儀ニ付壬申年第二百三十五号公布ニ據リ改名不開届可然哉將々教導職試補以上ニ無之トモ既ニ得度シ佛徒ニ歸シタル上ハ一般ノ通稱ニテ實際不都合ノ儀モ有之趣ヲ以テ改名願出候ハ、事實取調ノ上從前ノ通聞届可然哉相伺候也

指合十年三月 書面伺ノ趣教導職試補以下ノ者ハ難聞屆儀ト可相心得事

○至苑摩縣九年八月 一人兩名ヲ稱スルハ不相成候得共演劇其他技藝上ニ於テ別
名ヲ稱スル等ハ差支無之ヤ相伺候也

指合八年十月 書面一人兩名ハ固ヨリ不相成尤藝業上於テ別號ヲ稱スル儀ハ差支無
之候事

○至石川縣八年五月 凡ソ婦人嫁シテ後終身其生家ノ苗字ヲ稱スヘキ儀ニ候ヤ又
ハ天家ノ苗字ヲ唱ヘキ儀ニ候ヤ相伺候也

指合九年四月 書面伺ノ趣婦人ニ嫁スルモ仍ホ所生ノ氏ヲ用フ可キ事
但夫ノ家ヲ相續シタル上ハ夫家ノ氏ヲ稱スヘキ事

○至堺縣十一年六月 第五條 甲ノ士族或ハ平民ノ戶主家名相潰シ長男ハ乙某方
ハ養子ニ差遣シ自分共ニ妻次三男等併テ入籍致候節ハ既ニ家名斷滅致候儀ニ付戶
籍上乙ノ附籍トハ難認依テ乙ノ姓氏ヲ冒シ只入籍ノ事由ノミ頭書致シ可然哉其他

三ヶ條相伺候處不相成候ト可心得尤家名ヲ廢セテ養子ノ家ニ附籍又ハ同居之儀不
當旨本月十三日御指合相成然ル處昨十年八月太政官第六十号御達シニ依レハ戶主
タリト家名ヲ廢シ他ヘ入夫縁付或ハ養子女ト相成候儀ハ其附願ニ可任筋ニ候處今
般ノ御指合ニテハ家名ヲ潰シ候儀ハ不相成哉ニ被考テ解難致右ハ全ク戶主タルモ

ノ他ヘ入夫或ハ養子女ト可相成爲ノ家名相潰シ候儀ハ不告筋ニテ該子女ノ養家ヘ
入籍致シ候儀ハ不相成御趣意ニ候哉

第六條 乙士民ノ戶主定業無之加之家族多人數ニテ且性質虛弱ニ付一家維持難致
不得止家名相廢入夫或ハ養子女ニ罷越ニアラスシテ全ク養育ヲ受ヘキ爲メ甲ノ親
戚又ハ懇意之方ヘ入籍致シ度旨願出候者有之右ハ甲家戶籍上如何記載可致シ哉

指合十一年八月 第五條 伺ノ通 第六條 難聞屆儀ト心得ハシ

○至鳥取縣七年十一月 男女兩戶主結婚合家ノ末夫妻ノ内何レカ死去シ尚又外戶
主ト結婚合家再三ニ及ヒ或ハ本末親戚數名合家ノ後何レカ死去スレハ家祿ハ其相
續人ヘ給與スヘキ旨先般東京府伺面ヘ御指合ノ趣有之候處男女兩戶主ノ内女戶主
死去スレハ其遺族或養子等貴請ケ死者ノ相續人ニ可相立親戚三名合家ノ内二名死
去スレハ同シク其子女遺族或他人養子等ヲ以夫々相續人ニ相立テ渾テ死者ノ系統
ハ連綿セシメ候儀ト相心得可然哉

但男女兩戶主合家ノ上女戶主所生ノ子女ハ男戶主相續人ニ相立至當ノ儀ト相心
得候得共正條無之ニ付如何可取扱哉

指合九年一月 合家ノ儀ハ結婚合家又ハ本末親戚ノ合家共既ニ合家致候上ハ戶主
タル者ハ何レカ一人ニ可止者ニテ各自戶主ノ姿ニ存スル者ニハ無之候條戶主ハ一

本邦法令彙編 卷下 頁十

萬葉集

人ニ相定ノ置キ其戸主ニ非サル一方ノ者死去ノ節ハ其家祿ハ戸主タル者相續致候筋ニテ家系ハ其家ノ相續人ノ相立候儀ト相心得可申候東京府同面ヘ指令ノ相續人ト有之候ハ死者ノ相續人ト申儀ニハ無之候事

〔廣島縣〕十九年十二月 第一條 茲ニ男女戸主結婚合家シ男女子出生然ル後便利筋ニ依テ雙方熟談ノ上分離候節右出生ノ男子ハ父母ノ内何レハ屬シ可然哉

第二條 甲家戸主死亡尤長女アリ依テ乙家獨身ノ男戸主合家シテ甲家ノ長女ヲ妻ニ縁組シ男女子出生然ル後便利筋ヲ以テ雙方熟談ノ上妻ハ離縁其儘甲家ヘ差戻分離候節右出生ノ男女ハ父ニ屬シ可然哉

指令廿五年ニ 書面合家ノ儀ハ一方ノ家名ヲ相立候儀ニ付出生ノ男女子ハ分離ノ上ト雖モ合家ノ節家名ノ相立候方ヘ屬シ候儀ト可相心得尤雙方協議ノ上ハ何方ヘ引取候モ不苦候事

○〔室〕敦賀縣十八年三月ニ 今差ニ士族甲乙丙ノ三家アリ素ヨリ同姓ニテ乙ハ父タリ甲丙ハ子弟タリ甲ハ有祿乙丙ノ兩家ハ無祿ノ處家政向難行届乙丙兩家相廢シ甲某ヘ合家致シ度旨親戚協議連署願出候類ハ聞届不苦候哉相伺候也

指令廿八年五月 書面ノ趣事情相違ナキニ於テハ同ノ通聞届不苦候事
名東縣 九年一月十一 一明治六年第二十八號公布中本家分家親戚等ノ内當主病死シ

跡子弟幼年并ニ婦女子等ノ砌合家聞届不苦トノ御趣意ニ基キ當主病死シ跡遺妻子無之全ク血統相絶候節死者ノ遺言又ハ重立候親戚ノ者熟議ノ上親族ノ家ヘ合家致度願出候ハ、聞届不苦哉

一士族兩家アリ甲ハ本家ニシテ乙ハ分家ナリ乙家ノ戸主ハ甲家戸主ノ實弟ナリ此者先年病死シ他ヨリ養子シテ相續ス是モ亦病死シ當時相續人無之ニ付相續人ヲ索メ得ル迄ノ間甲家戸主ノ實母ヲ以テ假ニ相續為致度願出ツル者ハ死者ノ血統ハ無之候得共本末ノ縁故有之ニ付聞届不苦哉

指令廿八年七月ニ 書面第一條 難聞届候事
但親族協議ノ上相續人相立候儀ハ不苦候事

第二條 第一條指令ノ通可相心得事

但相續人相定候マテ親族協議ノ上家名預リ置候儀ハ不苦尤相續人ヲ定ムルハ當主死去後五十日ヲ過ク可ラス若シ不得已事情アリテ親族連印ノ願書ヲ以延期ヲ乞フ時ハ聞届不苦候事

〔三重縣〕四年六月廿 平民ノ内前々一家ノ都合ニ據リ子弟或伯叔父母等ヲ分家致候處當今ニ至リ其分家セシ子弟或伯叔父母不得已事故有之本家ヘ復藉ノ儀願出候者有之右ハ其身一人ニ候ハ、縦令一家ヲ廢シ候共祖先ノ祀ヲ絶キ候譯ニモ無之ニ付

聽屆可然哉ニ相考候ヘ共モシ家族等携帶致候者ハ本人ノ外復籍トハ難申所謂合家ノ姿ニ相成合家同様不聽屆可然哉雖然未家ヲ廢シ本家ヘ合シ候ハ男女兩戸主等合家トハ自ラ權衡有之候間聽屆不苦哉

但本文ノ如キ若シ士族ニ候時ハ如何相心得可然哉

〔指合〕九年七月二十六日 合家同一ノ儀ニ付難聞屆候事

〔室宮城縣〕八年十月三十日 本家ニ家督相續スヘキ男子ナキヨリ未家單身ノ戸主ヲ

養子ニ致度願出候者有之聞屆不苦ヤ然ルルハ未家ニハ別ニ相續人相立サセヘクヤ又ハ家産トモ本家ヘ兼併スル譯ニ候ヤ相伺候也

〔指合〕八年十一月十五日 書面伺ノ通尤未家ニハ別ニ相續人相立候トモ又ハ本分家合供候

トモ親戚協議出願ノ上ハ聞屆不苦候事

〔山形縣〕八年十一月三十日 第一條 凡父祖及ヒ兄等ノ見込ヲ以一部分ノ資産ヲ割キ與ヘ

ラレ既ニ分籍別家セシモノハ假令其受ケル所ノ資産ヲ蕩盡シテ頼ルナキノ場合ニ立至ルト雖本家ニ對シ再ヒ強テ合家附籍ヲ請フノ筋無之儀ニ候哉又ハ合家附籍ヲ請フノ筋無之ト雖聞門ニ於テ救助ヲ與フルノ義務ハ可有之哉又ハ本家ノ慈愛ヲ以或ハ合家附籍ヲ許シ或ハ救助ヲナスヘキノ義務アリト雖分家ニ於テハ一切之ヲ強ル筋ハ無之儀ニ可有之哉

第二條 分家ニ於テハ一切之ヲ強ル筋無之ト雖若シ其居宅地面ヲ離ル、カ又ハ借主ノ期限満ツルカニテイム所ヲ失ヒ願出候者ハ其人頭ヲ本家ヘ引渡シ扶助方申達シ可然哉

第三條 扶助方ハ一切父祖及ヒ兄等ノ意中ニ任セ可然ヤ又ハ相當ノ定限ヲ立テ扶助為致可然哉

第四條 假令本末ノ間柄ト雖老幼癡疾ヲ除クノ外其身強壯ニシテ能ク職業ニ堪ル者ト認ムルトキハ一切扶助方等ノ處分ニ及ハサル儀ニ可有之哉

第五條 假令ハ本家ニ於テ慈愛ノ心薄ク其所遇苛刻ニ涉ルノ見込ヲ以其親族共ニ於テ會議ヲ起シ決議ノ次第ヲ以伺出候節ハ其決議ニ從ヒ手當可致旨申達可然哉

〔指合〕九年九月九日 書面ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 本家ニ於テ合家附籍ヲ許シ又ハ救助ヲナスヘキ義務アリト雖分家ニ於テ之ヲ強ルノ筋無之事

第二條 住所無之等ノ願筋官ニ於テ可取上儀ニ無之候得共路頭ニ流離シテ依ル所ヲ失ヒ候者ノ如キハ親戚又ハ本家等ノ内其縁故厚キ者ヘ可引渡若シ可引渡者無之ニ於テハ一般ノ扶助法ニ從テ處分可致事

第三條 以下第二條ノ如ク引渡候時ハ其取渡ヲ受ケタル者ノ所存ニ可任事

東京府十年二月 當府士族高村武成母トシ并ニ三女カ子復籍ノ儀本年二月二日相
同候處復籍ハ分家セシ當人ニ限リ候儀ニ付其者死後遺族復籍ノ儀ハ難聞届旨御指
令有之右分家セシ當人トアルハ戸主一人ヲ指シ候儀ト相考候得共高村住道遺族ト
シ并ニカ子儀ハ分籍ノ後嫁付或出生セシ者ニ無之元來武成家族ニシテ住道分家ノ
節携帶致候者ニ付分家セシ當人ト看做シ相當ニ可有之且該件ノ如キ御聞届無之テ
ハ生計上差支候條分家ノ節携帶ノ遺族ハ分家セシ戸主同様復籍御聞届相成度更ニ
相伺候也

指令十年五月 書面伺ノ趣聞届不告候事

和歌山縣十年四月 管下第四大區一小區中飯降村平民中岡源助臨終ノ際男女子無
之ニ付分家ノ姪同村平民中岡ブン女戸主ヲ養女ト致度遺囑書ハ既ニ該區戸長役場
ハ差出有之ヲ以テ親戚半之ニ同意スト雖正右源助遺妻々々ノ他ヨリ及ヒ伯母山本
トニ其他一兩名之ヲ肯セサルモノアリ右ハブンナル者分家ノ一戸主ト雖正故源助
遺囑書モ有之且親戚血統中相應ノ男子モ無之ヲ以テ右ブンナル者家名相續人相設
ケ候上ニテ故源助家督相續為致候儀素ヨリ至當ノ儀ニ付百方説諭ヲ尽シ親戚和熟
ヲ圖ルト雖モ右トニトル者遺妻々々ノヲ以テ家督相續為致度段遮テ主張ノ頑然不
服ヲ唱ヘ到底熟儀不相成ノミナラス殆ト出訴ノ場合ニ立至ラントスル趣區戸長共

ヨリ詳細具狀有之右等本家相續ノ儀ハ假令其分家ヲ廢スルモ素ヨリ平常ノ合家ト
區別モ有之況ヤ遺囑有之儀ニ付無論不告筋ト存候得共未タ本家ハ返籍無之猶他家
ノ婦女タル名義ニ付一般ノ御成規ニ於テ或ハ不相成儀トモ候哉詳細御指示被下度
相伺候也

指令十年五月 書面他家ノ婦女タリ共其家ニテ生レシ男女子他家へ縁付キ拳タル女
子ニ候得ハ相續不告儀ニ有之併親屬中不服ノ者有之候ハ、裁判官ノ處分ヲ為受候
儀ト可相心得事

○至東京府五年三月廿 從來華士族ノ家籍ニ縁故有之附籍厄介ト相成居候者總テ
元身分ヲ以取扱來候處將來華士族ノ家族都合ニヨリ平民ノ家へ附籍厄介ト相成候
テモ同様元身分ヲ以取扱可然ヤ左候時ハ現籍ノ族ト身分取扱方ト相違致不都合ノ
次第モ有之現今東京裁判所ヨリ尋問中ニ候得共何分戸籍法則中判然タル條例モ無
之候間相伺候也

指令八年四月 書面ノ趣ハ從前ノ通元身分ヲ以テ可取扱事

茨城縣十年六月 附籍厄介西稱區別ノ儀ニ付明治九年五月十二日伺ハ明治十年一
月九日附籍ノ儀ハ伺ノ通ト御指令有之ニヨリ親戚他人ヲ論セス他家ニ生レ家系ヲ
異ニスルモノヲ養育スルハ總テ附籍ニ取扱來候處本年御省日誌第七号東京府伺

へ附籍者ハ別ニ姓名ヲ有スルモノニ付其家長ヲ一戸主ニ數ルハ勿論ノ儀ニテ戶籍
ハ其附籍スル所ノ戶籍ト一紙ニ記載云々ト御指令ニ就テハ凡テ附籍人ハ一戸ヲ存
立シ一般ノ戶主ト同一ナルハ勿論ノ處當縣下ノ如キ從來ノ慣習ニテ極貧ノ者ニ至
テハ伯叔父母兄弟等各所ニ離散寄食スルモノ皆ナ附籍ノ名義ヲ以テシ何レヲ其家
長ト見定メ難ク依テ其實ヲ搜求スレハ戶主ノ死亡スルヤ妻子貧乏ニシテ一戸ヲ維
持ス能ハス親戚或ハ縁故ノ者へ其身ヲ寄スルニ當リ譬ハ妻ハ甲ハ乙ハ女ハ丁
ハト分離致居候者有之遂ニ其家主ヲ定メサルニ至ル右等ハ畢竟一家族ヲ拳ケ附籍
セシムルノ力ナキヨリ不得已各所ニ頼ル儀ナレハ其中妻又ハ長男ヲ一戸主ト定メ
サセ該戶主ノ附籍スル家ヲ以テ原籍トナシ他ノ乙丁ハ寄食スルノ男女ニ至テハ乃
チ原籍ヨリ派出スルモノニ付是又附籍ト看做シ聞届可然哉若シ然ラハ乙丁附籍者
ノ戶籍記載方別紙ノ通相心得可然哉相伺候也

但御省日誌中往々相見候養家ノ女ヲ離縁シ人ノ附籍トシ又ハ事故アリ嗣子ヲ置
キ他ノ附籍トナル等總テ本文ニ準據可然哉且犯罪人處刑濟ノ者原籍父兄等ノ有
無判然不致引渡難相成者望ミニ依テ他人へ附籍スル者ハ一戸新立ト看做シ可然哉

別紙

戶籍記載方

母方伯母父當國某郡
某村何ノ誰附籍何ノ
誰長次男女從弟

其村退轉ノ後附籍

指令 十年七月 書面伺ノ通

何 誰

石東縣 五年五月二十 本末兩家アリ本家ハ兄末家ハ實弟ナリ本家衰頽子弟ヲ養育
スル能ハス嗣子ヲ除クノ外其子弟ヲ末家へ附籍致度旨願出候ハ、士民ヲ不論聞届
不苦候ヤ

指令 八年九月 本文附籍ハ本分家親戚ニ不拘他人ニテモ不苦候事

天分縣 昨七年十二月中戶籍ノ儀ニ付相伺候處書中其實家已ニ斷絶シテ別家ノ從
弟アルモ附籍スルヲ肯セス云々ノ件養子ハ元來實家ヨリ出ル者ニテ別家アリ親戚
ノ從弟附籍スルヲ肯サル謂レナク其事實詳細取調更ニ上申可仕旨右ハ從弟ナル者
不引受ト申募候譯ニハ無之候得其實家已ニ斷絶ニ付從弟ヨリ附籍ヲ願出候ハハ無
論ナレモ若シ不肯ハ官ヨリ附籍申付候權利可有之哉何分不分明ニ付前書相伺候也
追テ本人若シ實家斷絶シテ餘ニ親戚ナク復籍致シ候地無之節ハ如何處分可仕哉
為心得併テ相伺候也

指令 八年六月 書面親戚ノ從弟へ引渡方可取計其上附籍取計候トモ又ハ別戶爲相立
候トモ右從弟ノ存意ニ任セ可申候事

但實家斷絶地ニ親戚等モ無之末ハ本人望ノ地へ更ニ籍ヲ定メ可申事

〔東京府〕^{十年一月十日} 第四條 附籍人ヲ一戸存在トスルキハ附籍セラシムル戸主ト其財産ヲ共通セサル哉果シテ然ルキハ戸主身代限リ或財産追徴ニ遣フト雖氏附籍人ノ財産ニ關係セサル儀ニ可有之哉

第五條 妻離縁ノ節實家斷絶ノ者ハ親族縁故ハ附籍スル例有之附籍人ヲ一戸ト看做スルハ右様ノ者ハ新ニ一戸ヲ立タル筋ニ可有之哉

〔指令〕^{十年二月} 四條五條總テ伺ノ通

〔和歌山縣〕^{八年七月廿四日} 夫婦一女子アリ家内三人ニシテ婦ハ事故有之最前離縁實家ハ復歸ス然ルニ先夫家貧シテ女子ヲ養育スルヲアタハス婦ノ實家ハ附籍厄介ニ致度雙方孰議願出候ハ、聞届候テ不苦哉

但本文ハ先夫血統ノ者追テ相撰相續人ニ相立候等

〔指令〕^{八年八月九日} 書面伺ノ通

〔節磨縣〕^{九年九月十日} 夫婦ノ際事故有之離別ノ時婦其子女ヲ携ヘ家ニ歸ルニ方リ子女ヲシテ家族ニ編入シ或ハ附籍トナス等ノ如キハ固ヨリ自他ノ約束ニ因ルト雖若之ヲ附籍トナシ他日養子及ヒ妻妾等ニ遣ストキハ其附籍ノ戸主ヨリ送籍シ可然哉

〔指令〕^{八年十一月二十九日} 離縁ノ妻長男ヲ連歸リ候儀ハ不相成候事

但發篤疾等ノ事故ヲ以テ相續人ニ不相成者ハ連歸リ不苦尤附籍者送籍ノ儀ハ追

テ可相達儀モ可有之候條先當分伺ノ通可取計事

〔東京府〕^{十年十一月十日} 戸主タル者單獨老幼極貧等ニテ一戸ヲ維持スル能ハマ親戚縁故ハ附籍ナル片ハ一戸廢絶云々ノ儀昨明治九年十二月十二日附ヲ以テ相伺候處四月二十三日附ヲ以テ附籍ハ一戸廢絶ノ儀ニ無之云々御指令ニ付疑團ノ廉更ニ相伺候

戸主タル者一家ヲ取疊ヒ他ニ附籍タルモノ一戸ヲ廢絶スルニ非ストスルキハ同居人ト同々其家長ヲ一戸主ニ數ヘサルヲ得サル理ニシテ戸籍法ト抵觸候據相考候右ハ如何相心得可然哉

〔指令〕^{十年二月} 附籍者ハ別ニ姓氏ヲ有スルモノニ付其家長ヲ一戸主ニ數フルハ勿論ノ儀ニテ戸籍ハ其附籍スル所ノ戸籍ト一紙ニ記載スルト雖法則ニ抵觸スル廉無之候事

〔東京府〕^{十年一月十日} 附籍ノ儀家族同様徴兵ニモ召募相成候上ハ止メ家名ノ存スルノミニテ毫モ一戸存在ノ推ヲ有セサル者ト相考候然ルニ仍ホ一戸存在ノ者トスルハ徴兵ニモ召募マヘカラサル哉ニ存候右ハ如何相心得可然哉

〔指令〕^{十年二月} 一般ノ戸主同様免役ニ屬シ候儀ト可相心得事

〔案〕^{節磨縣八年四月} 爰ニ平民アリ其男戸籍編制前其子ヲ携ヘ某ノ養子トナリ

其家女ト婚シテ之カ戸主タリ後男ヲ生ム是ニ於テ戸主ハ前ノ子ヲ以テ長男トシ其
ハ後ノ子ヲ以後嗣トスヘキ者トシ一家協和シ難シ依テ戸主ノ意ニ出テ長男ヲ分家
セシメ後ノ男子ヲシテ後嗣タラシメントス長男モ又是テ企望スルヨリ親族連署ヲ
以テ分家致シ度旨出願マルモノアリ然ルニ法ヲ以テ論スレハ許ス可カラサル如シ
ト雖トモ情ヲ以テ之ヲ推ス時ハ又察ス可キ廉モ有之殊ニ父子情一家ノ盛衰ニ注意
シ篤志上ヨリ願出候儀ニテ情實不得已次第ニ有之且他家ノ養子トナマニ非ス畢竟
一家ヲシテ本末ヲ分ツニ過サル事ニ付願ノ趣特別ヲ以テ聞届可然哉相同候也

指令 八月十四日 書面分家ノ儀聞届不苦候事

○**〔宛〕** 磨磨縣 三月十日 明治六年第二十八号公布中當主壯年ナレ疾其外無據
事故アリテ隱居致候末最前ノ當主疾病平愈又ハ事故相解候節再相續云々ノ主意ニ
テ願出候ハ、聞届不苦ト、御旨趣ヲ推及スレハ右等ノ者ハ勿論五十歳以上隱居ノ
輩本人ノ思慮ニ出テ一家親族執議ノ上分家致度願出候モ事情取糺相違ナキニ於テ
ハ士民ヲ論セス聞届不苦哉相同候也

指令 八月五日 書面伺ノ趣聞届不苦候條華士族分家ノ者ハ昨七年第七十三號公布
ノ通民籍ハ編入可致候事

○**〔宛〕** 磨磨縣 九月十日 寡婦ノ母ニレテ分家ノ情願アリ當主及親族連署ノ上願出事故

於無之ハ聞届不苦候哉

指令 八月十五日 伺ノ通

○**〔主〕** 筑摩縣 七月十四日 女子其父兄死亡シ一家中尊長タル者無之戸主ニ相立候ハ
不得止儀ニ有之然ルニ新ニ無夫ノ女子ヲ分籍シ戸主相立候儀不苦候哉相同候也

指令 八月十五日 書面伺ノ通

○**〔名〕** 東縣 八月八日 娘分家シ戸主トナリ夫ヲ迎ヘ家名讓渡ノ後夫ノ肩書ハ實父
ノ名ノミヲ記シ候テハ男子分家スルノ姿ニ相成候ニ付妻ノ父ヲ養父ト見做シ養父
ノ名ヲ記シ養子分家ノ書式ニ認可然儀ニ候ヤ

指令 八月十四日 妻ノ父ヲ養父ト見做ス理ハ無之其夫實父ノ名ノミヲ記載致シ候ト

モ男子分家ノ姿ニハ不相成候條該家世代ヲ數フルホハ妻ヲ初代現夫ヲ二代ト可相
心得事

○**〔主〕** 葉縣 八月二日 士民幼稚ノ子弟遺家相續スルニアラス獨立ノ主意ニテ分家分
籍ヲ願出候者有之後見人相立候節ハ幼稚ト雖聞届不苦候哉

指令 八月十五日 書面伺ノ趣聞届不苦候事

○**〔主〕** 長野縣 十月十四日 本年五月二十二日付ヲ以テ地主死失或ハ退轉セシモノ相續
人相定リ候迄其地所ヲ預リ居候者地券証書換願出候節券狀面書式ノ儀相同候處御

指令ニ地券証書ハ相續人相立候上書換可相渡云々ト有之然ルニ同三月十九日附伺
 へ御指令ニ一家死亡跡ノ儀ハ直チニ相續人相立可申若シ相續人無之時ハ其家斷絶
 候儀ニ付三十六ヶ月ヲ待タス遺留財産ハ入札拂云々尤目今相續人無之ニ付追テ選
 定致ス迄遺留財産ヲ保管致シ度旨親族協議ノ上申出候ハ、聞届候儀ト有之右兩條
 御指令ノ趣ハ親族又ハ組合等ニテ協議ノ上保管致シ度旨申出ルニ於テハ死亡或ハ
 退轉ノ日コリ起算シテ三十六箇月十日ノ積未滿ノ期限迄ハ聞届最前相渡シ候儘ノ
 券狀死亡或ハ退轉人ノ名面ニテ其地所ト共ニ親類組合等ニテ預リ置キ不普儀ト相心得可然哉
 相伺候也

指令十一月二書面伺ノ趣保管ノ期限ハ無之跡相續人ヲ撰定スル見込有之分ハ三
 十六箇月外ト雖モ聞届苦シカラス券狀ノ儀ハ其儘親戚ニテ預リ置キ地券臺帳ハ其
 旨可記載事

但組合ヨリ保管致シ度申立ル節ハ無之義ト可心得事

滋賀縣十年九月廿戸主ニ非サル者ニテ上地ヲ有スル者ハ附與スル地券証ニハ其
 戸主ノ姓名ヲ肩書ニ顯シ候儀地租改正事務局へ伺濟ノ處右取扱件々ノ内權利ノ有
 無内務省へ相伺候上更ニ可申出旨同局御指令有之ニ付併テ左ニ相伺候
 第一條 戸主ニアラサル男子ニシテ土地ヲ有スル本人死失スルニ其妻子アレハ其

遺留ノ土地ハ其妻子ニ於テ讓與ノ權利ヲ有スヘク然ルルハ其讓與ハ成規ノ通りニ

人以上ノ証人爲相立証印稅ノ儀ハ代替讓與ト同一ニ看做シ券狀一通ニ付金一錢收

入ノ積ト相心得而シテ其讓受タル日ヨリ滿六ヶ月ヲ經過シ地券書換申受サル者ハ

明治八年第五百三十三号公布第二條ニ依據シ死亡代替ト同視スヘキ哉

第二條 地租改正事務局別報第七十四号和歌山縣伺ニ若シ代替ノ際所有地ノ幾分

ヲ殘シ置キ前戸主ニテ持續追テ地券書換ノ分ハ券面代價ニ據リ即親族証印稅收入

候儀ト可心得旨同局御指令有之右ハ持主存生中ノ伺ニ對スル御指令ニ候處其死亡

後遺留ノ券証ハ第一條ノ權衡ニ依リ同一ニ相心得可然哉但何レモ遺証有之

指令十一月一第一條 伺ノ通 但遺妻離縁ノ節ハ券狀持去ヲ許サス

第二條 伺ノ通

官城縣十一年二月第一條 戸主其所有地ヲ質入又ハ書入トシ金穀ヲ借受質入書

履行セ八日伺返濟期限ヲ過去リ戸主失踪專中債主ヨリ返金ヲ督サ、ルモ他ニ辨償ノ策

ナク去連本人復歸迄捨置カクキ事情有之ヲ以テ家族或ハ親戚証人等協議ノ上地所

ヲ債主ニ引渡シ雙方連印負債者出際ニ付家族或親戚等ニテ代印スヲ以テ地券書換ヲ請フハ情願ニ任

七聞届可然哉

第二條 同上ノ負債者返濟ノ期ヲ過キテ全戸失踪協議スヘキ親戚無之モ最初質入

書入等ヲナセシ片ノ証人アリテ債主ト協議ノ上地所ノ受渡シヲナスカ入ハ示談ス
ハキ証人モナク獨リ債主ヨリ書換ヲ請願スルカ如キハ負債者出踪後三十六ヶ月以
内ト雖正當初債入書入等ノ節成規ヲ履ミ証書面判然タル者ハ聞届可然哉
第三條 甲其所有地ヲ賣却セント欲シテ乙ニ依頼シ乙其委任ヲ受ケテ丙ニ賣渡ノ
約定ヲナシ賣買ノ手續ヲ經代金受渡濟ノ末地券書替出願ノ際ニ臨ミ甲脱籍シテ連
印スル能ハサルヨリ乙代印ニテ券狀書替ヲ出願セル片ハ甲ヨリ乙ニ付與シタル委
任狀ニ書換願書代印等ノ明文無之ト雖正賣買ノ順序成規ニ遵ヒ且右代金モ甲ニテ
受領セシ確証有之乙丙連印ヲ以テ券狀書替ヲ出願スル片ハ聞届可然哉
第四條 甲ノ所有地ヲ乙ニ賣渡スヘキノ契約相整ヒ之カ証書ヲ交換シ該地券ノ書
替ヲ申請セントスルノ際甲死亡スル片ハ跡相續人定リタル上其代替券狀書換ノ手
續ヲナシ然ル後丙ニ即跡相續人ノ契約ヲ履行セシメ成規ノ通り書替授與可致儀ニ有
之處未ク其手續ヲナサル以前丙失踪スル片ハ尋方期限中其儘差置キ其期限六ヶ
月ヲ經過シ歸籍セサル時ニ當リ亦更ニ相續人ヲ定メ然ル上甲ノ契約ヲ履行セシム
ヘキ哉又ハ前件ノ如キ既ニ賣買ノ契約ヲナシ乙ヨリ其代金ヲ甲ニ渡シテ地券書替
ヲ願出ヘキ際ニ臨ミ前陳ノ次第ニ立至リタル者ハ前條ノ順序ヲ踐マス直ニ親戚二
人以上ノ保証人ヲ立テ賣買契約証相添出願スル片ハ地券書替下渡シ不苦哉

指金十一月三日 第一二三條 伺ノ通 第四條 賣買ノ確証有之ニ於テハ地券書替
可相渡事

廣島縣九年十月 退轉式處分遺留財產入札拂ノ儀ニ付本年御省日誌第二十六號元
磐前縣同ハ御指令中相續人無之上ハ則チ家名斷絶候儀ニ付遺留財產ハ三十六ヶ月
以内ト雖正官没ノ上入札拂ニ付シ云々ト有之右ハ財產ノ有餘不足ニ関セス一旦官
没可致害ニテ財產殘餘アル分ハ至當ノ處分ニ候ヘトモ大抵退轉スル者ノ如キハ極
貧無告ノ賤民ニシテ偶瑣小ノ財產アルモ莫大ノ負債固ヨリ償却難引足萬一各債主
ノ内官没ノ名義ニ據リ配當金不足高ク官ヘ請求可願出モ難計去吏官ヨリ辨償スル
道理モ無之依テ熟考スルニ入札拂ノ上各債主ヘ配當方取計ヒ而シテ猶ホ殘餘アル
分官没相成候ハハ官民ノ間公平ノ措置ニシテ各債主ニ於テモ納得可致ハ勿論ナル
ノ債主ヘ配當前官没ノ處分取計候テハ少シク順序ヲ失マルニ似タリ右ハ如何相心
得可然歟相伺候也

指金十月二日 書面相續人無之遺物財產ハ管轄廳ニ於テ取調入札拂ニ付シ各債主ヘ
配當餘金有之候ハ、官没恤救費ニ充候儀ト可相心得事

滋賀縣十一月一日 第一條 戶主死亡ノ跡相續人無之一時絶家ニ属スル土地地券証
ハ親族組合等ノ申立ニ依リ持主何某絶家預リ人何某ノ名義ヲ以テ地券ヲ下與シタ

指令^{十一年} 第一條 伺ノ通 第二條 地券ハ其人ニ附與スル者ト雖^氏養子中ニ得タル地券ハ總テ離縁ノ節持去ヲ許サス 但實家ヨリ附與スル分ハ此限ニアラス

第三條 伺ノ通 第四條 第一二條指令ノ條理ヲ以テ懇篤ニ説諭スルヲ得ルト雖モ其理解ニ服セサル時之ヲ讓渡ノ處分ハ司法ノ裁判ニ歸スヘシ 第五條 養家尊屬ノ親ハ第二條指令ノ旨趣ニ依リ處分スルヲ得

○重愛知縣^{八年五月} 甲ノ家ノ戸主没シ嗣子ナク乙ノ家ヨリ養子相續ス其相續人病痾ニ罹リ隱居シ丙ノ家ヨリ養子甲家相續戸主トナルノ後養父病愈ヘ更ニ丁ノ家ニ入り相續戸主トナル時ハ甲丁家主ニ於テ養子ノ稱ヲ存シ相互ニ服忌ハ無之儀ニ候哉又ハ丁ノ家主ニ於テハ乙ノ家ハ勿論實家トシ甲ノ家モ養家ト唱ヘ甲丁相互ニ定式ノ服忌ヲ受候譯ニ可有之哉相伺候也

指令^{八年七月} 書面丁ノ家相續セシ者ハ當初甲ノ養家斷縁タルヘク且甲乙家主ニ於テハ勿論養父子ノ稱存セテ相互ニ服忌ハ無之儀ト可相心得事 三重縣^{九年十二月} 第一條 服忌令ニ父モ養子其身モ養子ニ候時ハ養父ノ實方服忌無之トアリ就テハ右養父ノ實父母兄弟等ト養子ノ間ニ在テハ相互ニ服忌ヲ受ケサル程ノ儀ニ付無論五等外ニ候ヤ

第二條 同令ニ子無之死去候者名跡相續ノ為メ親規ニ家督相續ノ時ハ養父母ノ如ク服忌可受之死去候者ノ妻ハ養母ニ可准允養實ノ定メ養子ノ如シトアリ右ハ相續人タルモノ先代ニ對シ養父ノ名儀ハ無之候得共其家督相續ヲナスヨリ義理上ニ於テ養父母ノ如ク服忌ヲ受ケルノ筋ニ可有之然ラハ先代ノ者該家ニ生ル、モ或ハ他ヨリ養子ニ來ルモ其父母兄弟等ト相續人トニ於テ親族ノ名儀ハ無之儀ニ候也 指令^{十年六月} 第一條 伺ノ通

但服忌ノ有無ニ拘ハラズ親族ト可相心得事 第二條 死去者ノ跡ヲ相續スル者ハ尊屬ノ親及弟妹ヲ除クノ外生前父子ノ約ハ無之トモ養父子ノ名儀有之筈ニ付其養父ノ父母兄弟ハ無論親族タルヘキ事

官城縣^{十年十月廿} 明治六年第二十八號家督相續法公布第四條ノ御趣旨ニ基キ隱居ノ養父他ハ縁付候節忌服ニ差別有無ノ儀同七年七月廿五日付ヲ以テ相伺候處同年十月四日隱居セシ養父他ハ縁付候節ハ當戸主ノ養子ハ無忌服ト可心得旨御指令有之然ニ今般御頒布相成候法例彙纂第三板ニ昨九年四月五日御省伺ノ條款第二條ニ家生ノ養父隱居ノ後他家相續セハ都テ前條ニ倣ヒ養方叔父ト稱シ叔父ノ服忌ヲ受ケ可然哉ヘ同四月廿七日太政官御指令ニ二條共同ノ通ト有之然ルルハ養父ニ家生他生ノ二種有之ニ付家生ノ養父ナルルハ御省伺定ノ通ニシテ他生ノ養父ナレハ

當縣伺定ノ通ニ様共遵行候儀ニ可有之哉再應相伺候也

〔指令〕十年十一月十七日 書面伺ノ通

〔廣島縣〕九年九月十三日伺

戸主ニ男子アリト雖モ家計ノ都合ヲ以テ女子へ養養子ヲ貰受ク

ル片ハ其子女及ヒ養實ニ於テ養實ノ差別アルモ均レク父子ノ名義アレハ養方兄弟姉妹ノ間ニ於テハ互ニ定式ノ忌服可相受儀ト存候處養養子ノ儀ニ付伺へ明治八年九月廿三日御指令ニ養養子ト弟男子トノ間稱呼ノ儀ハ姉養妻弟ヲ以テスヘク云々ニ

準スレハ養方兄弟ノ續合無之ニ似タリ若シ妹へ養養子スルモ稱呼上同様ニテ戸籍記載ハ夫婦ヲ以テ列次相立ヘキ哉且服忌受方如何相心得可然哉相伺候也

〔指令〕十一年七月 書面伺ノ趣實子アル者ノ養子ハ實子長次男ノ末ニ記載スヘク稱呼ハ長幼ニ隨ヒ養實論セス兄弟姉妹ノ名ヲ用ヒ相當ノ服忌ヲ受クヘク戸籍記載方ノ儀ハ伺ノ通

但昨八年九月中指令右ニ矛盾候分ハ都テ改正候儀ト可心得事

〔高知縣〕十年四月十二日伺 戸籍法中九十日内外ヲ以テ旅行寄留ノ日ヲ別タレ候處譬へハ廻國行脚ノ如キ其實一所ニ寄寓セスシテ其日數合計九十日以外ニ及フ者ハ願ニ依リ六ヶ月若クハ一年間ヲ定メ旅行証ヲ何年月日發足ヲ以テ何所ヨリ何道通り日數幾日間旅行ト記ス如キモノ付與可致哉相伺候也

但九十日内外ヲ以テ逗留ト寄留ノ別ヲ立ルハ寄留地ノ區分ト可心得事

〔省〕内務省 十一年五月十日伺 失踪並ニ死亡遺財處分ノ儀ニ付テハ追々御指令ノ次第モ有之之更ニ左ノ通改定致度相伺候

失踪逃亡者ノ遺財ハ家族ニテ保管シ家族ナキ時ハ親族親族ナキ片ハ區戸長役場ニテ保管セシメ負債アル者ハ其償却處分モ取計ハスル例ニ有之岡山縣伺租稅未納ノ者脱走處分ノ件へ十年六月十二日御指令等ニ由テ例トス候處右ハ負債處分ノ儀ハ種々差間ノ廉モ有之候ニ付以來ハ保管財産中書入質トナリタル分ハ其約定期限ニ至リ償却ノ處分地方官ニテ聞届書入質ニアラサル負債ノ儀ハ一切裁判所決ヲ經テ償却候様致度

前條ノ遺財負債ナキカ又ハ負債償却シテ猶餘財アル分ハ三十六ヶ月ヲ過キテ復歸セサル片ハ官没スル例ニ有之候處筑摩縣伺村民退轉所有地ノ件へ八年五月二日御指令並磐前縣奉家死失踪處分ノ件ハ九年四月十七日御指令等ニ由テ例トス右三十六ヶ月ノ期限ハ裁判上失踪者負債處分ノ期限ニテ官没ノ期限モ之ニ準スルハ穩當

本邦去令局要 卷下 皇正 萬葉月報

ナラス依テ該財産ハ可成丈ケ永久ニ保護スルノ趣旨ヲ以テ自今十年ヲ満期トシ官没ノ處分ニ及ヒ候様致度

死亡跡相續人無之遺財ハ三十六ヶ月ヲ待タス直ニ官没シ負債アル時ハ償却スル例ニ有之第二條割註同御指令ニ由テ例トス候處右負債償却處分區別ノ儀ハ第一條ノ通取計ハセ候様致度

右ハ各府縣ヨリ續々伺出候事件モ有之儀ニ付至急御裁令被下度候也
御指令 十一月十四日 伺ノ趣ハ左ノ通可相心得事

第一項 區戸長ノ保管スル財産中負債償却處分ノ儀ハ其書入質公証ノ有無ニ拘ハラス都テ裁判上ノ處分ニ任シ區戸長ハ之ヲ保存マルニ止マル可シ

第二項 追テ法律制定並ハ官没處分ヲ為サス本人歸來セハ其遺財ヲ返付スヘシ
第三項 負債償却處分ノ儀第一項指令ノ通

參考終

明治十五年十月五日版權免許
同 十六年四月三十日 出版

編輯人

山口縣士族 阪根正夫

牛込區東五軒町 四拾壹番地寄留

出版人

東京府平民 江嶋喜兵衛
日本橋區本石町 貳丁目九番地

周清外史

日本馬杉繫先生著
清 王治本先生閱

全部廿二卷
合 十三冊

定價三圓五錢

近世所行支那略史ノ類記事過簡ニ實ヲ省キ怪異百出荒誕無稽讀者之ヲ厭フ先生慨然トシ筆ヲ抽キ上周平王ヨリ下清人今日至ル治亂興亡謀戰忠邪跡歴々詳記シ怪異前ノ荒誕ヲ糾シ姓氏因テ編マシ日本外史体制ニ擬シ名ヲ周清外史トシ弊舖之ヲ先生請テ梓ニ上シ世播四方讀史各位最寄ク書肆ニ於テ此書購求賜其真筆精妙ヲ疎漏ヲ審キ幸甚

小學生徒訓條

田寺兆先生著

全十二冊

第一年前期ヨリ
第五年前期至ル

九冊刻成

小學教科書世行ハルモ極ニ多シ然レモ適當ヲモト云ハ亦極ニ少シ今此書ハ文部省小學教則綱領ニ基キ善ク各級生徒理解會力ト適當マシメ父母事ヲ道及尊王愛國義ヨリ以テ自己ニ對スル務課業ニ對スル務學校及教則對スル務財產及其他ノ物ニ對スル務等ニ至ルマテ主トシテ接近ノ事實ニ就キテ各級適宜條章ヲ組織シ生徒ノ誦讀服膺ニ最モ適當ナル良書ナリ

小學修身讀本

鈴木貞治郎先生編輯

全六冊

四冊刻成

定價一冊一圓七錢

右前書ト同ク小學教則綱領ニ基キ和漢先哲格言善行ヲ拳々而シテ初級字形大ニ意簡其進級ニ從ヒ字小ニ意漸深ク身前書比スレバ稍高等ニ屬ス又教科書適應善書ナリ

學校用書目

江嶋萬笈閣藏版

周清外史

王治本 閱
馬杉繫 著

十三冊

農家必讀

大藏永常 著

三冊

近世内國史略

太田秀敬 著

四冊

西洋農家訓

神田 豐 譯

二冊

本邦現行法令揭要

阪根正夫編輯
上 二冊
下 一冊

二冊

博物小識

菅野虎太 譯述
總生 寬 增補

二冊

小學修身論

秋吉省吾 閱
山本義俊 譯

三冊

理科一班

司馬盈之 閱
寺田祐之 譯

二冊

修身學訓蒙

山本義俊 譯述

二冊

訓蒙道理圖解

中村最文 譯

二冊

童蒙家道訓

野村肇編輯

二冊

慈母教草

長谷川協輔 全輯
高田義甫 全輯

二冊

小學修身讀本

鈴木貞次郎編輯

六冊

普通教科 紀事文題

齋藤時泰 著
一名作文要語

二冊

小學修身新書

岡本監輔編輯

六冊

上等 紀事論說文題

齋藤時泰編輯

二冊

小生徒訓條

田寺兆 著

十一冊

幼童教のまゝト免

須田辰次郎 譯
甲斐織衛 譯

二冊

簡易科 國畫府縣名 東京府學校編纂 卷 菱澤書 一冊 增補商法事情 中村最文 著 一冊

同 商賣往來 同 編纂 書 一冊 作文必用 鈴木貞次郎 著 四冊

同 消息往來 同 編纂 書 一冊 作文活法 関口守之助 鈴木貞次郎 編輯 二冊

明治新刻 名頭字盡 千葉忠三郎 著 卷 菱澤書 一冊 萬國地誌略物産辨 齋藤時泰 編輯 三冊

改 苗字盡 関 葦雄 編 卷 菱澤書 一冊 小學人體問答 平田完治 編纂 一冊

改 女大學 関 葦雄 編 卷 菱澤書 一冊 勸善口授 総生寛 著 二冊

正 女今川 浦野直輝 編 卷 菱澤書 一冊 小學入門解 同 註解 一冊

頭書類語 小學女用文 関 葦雄 編 卷 菱澤書 一冊 小學色圖解 富士越金之助 著 一冊

大日本一統分國輿地全圖 酒井彪三 編 半折 小學線面体圖解 総生寛 詳解 一冊

新選 普通玉編大全 西野古海 編輯 二冊 地球儀教授書 同 編輯 一冊

諸

尾州 名古屋本町六丁目

尾州 名古屋本町七丁目

勢州 四日市市南町

美濃 岐阜米屋町

美濃 大垣俵町

遠州 濱松紺屋町

駿州 静岡岡具服町五丁目

駿州 沼津淺間町

信州 長野仁王門前

信州 小諸荒町

下總 野田五丁目

下總 國佐原

片野 東四郎

梶田 勘助

伊藤 善太郎

三浦 源助

平野 利兵衛

齋藤 源三郎

佐藤 俊平

擁萬堂 壽三郎

西澤 喜太郎

相場 七左衛門

茂水 林藏

朝野 利兵衛

國

書

肆

常明水戸泉町
 磐城中村宇多川
 陸前仙臺國分町
 陸中一ノ關
 陸奥青森博勞町
 羽前山形六日町
 岩代福島通五町目
 武別 深谷驛
 全 所
 越後長岡
 越後高田吳服町
 越後四ノ谷廣村

松信善之助
 志賀茂卿
 伊勢安右衛門
 及川兵治郎
 柿崎忠兵衛
 市村五郎兵衛
 齋藤彦太郎
 小野脩三郎
 酒井省吾
 中村作平
 永多勝太郎
 佐藤友吉

三府書肆

西京寺町通四條
 全 寺町通佛光寺上
 大坂北久太郎町四町目
 全 南久室寺町四町目
 全 北久室寺町四町目
 全 備後町四町目
 東京芝三嶋町
 全 通り二町目
 全 壹町目
 全 淺草茅町二丁目
 全 通り旅籠町
 全 本石町二丁目

川中治兵衛
 川勝徳治郎
 柳原喜兵衛
 前川善兵衛
 前川源七郎
 吉岡平助
 山中市兵衛
 山中佐兵衛
 北田茂兵衛
 北澤伊八
 東生龜治郎
 江島喜兵衛

